

野津原方言集

編 続

4

杉本鳳山



★ はじめに

- 1 方言は生活に欠かせない 大切な生活用語で 土地柄を持ち出す温かい 生活文化の証です。
- 2 私たちは長い間 『使われ引き継がれた言葉』 を大切にする責任があると思います。
- 3 それは方言生活用語の中に 人間としての知恵や 生きて行く方法も内蔵しているからです。

★ なで集めたのか

- 1 生活や話の中で使われる 長い間使われた方言が 失われ消えつつあるから。
- 2 一度消えてしまうと 死語となって 再び取り戻すのは困難だから。
- 3 記録に残しておくことで これから取り組む人たちが 調査の参考になるから。

★ 野津原方言の特徴

- 1 生まれ育った言葉以外に 参勤交代などで 入った新しい言葉などが うまく溶けこんでいる。
- 2 3地域〈肥後 岡 天領〉によって異なるけれど 底流には人に優しい温かみのある 言葉文句が多い。
- 3 方言が温かい事による 人間性の情愛が育っている。
- 4 京 大阪 江戸との関わりで 標準共通語に近い面も多い。
- 5 早口で言う言葉と ゆっくり言葉の2通りがある。
- 6 大分県という言葉は 九州言葉とはかけ離れて伝わっている と言われる〈野津原もそれに含まれるのだろう〉。

ひと頃は方言や訛があると 田舎者と嫌われたが この頃では
方言や訛のある人は 生まれ育った素晴らしい 故郷があると認め
られ羨ましがられるようにもなった。

しかし人に不快感を与えたり 下品さをモロに出す方言は慎むべ
きで 元来その土地に大切に守り 育てられた温かみのある方言は
胸を張って使ってよいと思われる。

★ なお なえ ノウ ノヤ けんど でん チ ナ…地域性と
思われる語尾……

イランナァ ジャキナァ クレナァ ソゲーシナー ソウジャ
キナァ ヨッチクンナァ

ヨダキーナエ コマルナエ スカンナエ

ヨダキーノウ ソウジャノウ オモワンカノウ

ヨダキーノヤ ソウジャノヤ

スマンケンド ソウジャケンド タベヨルケンド イウケンド
ワリーケンド コマルケンド

クイハテン ニギリハテン イレハテン

トンギッチ モロウチ ヨロウチ ツッチキチ シカブッチ

コケチ オッチ クウチ

ナンシナ ドキーイッタンナ クレンナ モラワンナ キラワ
レタンナ クワンナ モラワンナ スカンナ

★ 早口 ゆっくり言葉

どかんか おけの こりゃー へよ わりゃー 出ちいけ
おぼえちょけ ごそごそ ありゅうみよ せちぼしかやす

いいんじゃねーな むげねーのう たのんでんいいな ねむ
ったで しょわーねー ゆるーたか ごてーしんが めがさ
めんか すきなしな

※ 関西《京都 大阪 周辺》 で使われている言葉で 野津原でも使われている方言…多少変化しているが…

コシイ…ずる賢い	オーキニ…有り難う
ズリー…悪賢い…のろい	キバル…力む…頑張る
タボウ…大事にする…けち	ハタカル…開く…広げる
チンメー…小さい…経済家	ホメク…蒸し暑い…発酵する
ナエル…しびれる…不自由に	ヨダキー…大儀な
アゴタン…口やかましい	オツクリ…魚の刺身
オチョクル…上手にあしらう	ヒネル…指先でつねる
オトンボ…一番後生まれ子	オトコシ…成人以上の男性
テカケ…隠し女…内緒の女	ドダイ…だいたい…そもそも
インデ…帰って	アゴタン…あご…おしゃべり
ウツガツツ…同じくらい	イヌル…帰る…戻る
エブ…荷札…表箋	ガナ…ばかり…だけ
コンメー…けち…小さい	チギル…もぎとる
テゴ…加勢…手伝い	ドダイ…とても
トット…まるで…とにかく	ニジクル…なすりつける
ネンシャ…念入りな人	ヒネル…つねる

このように大阪 京都 神戸など関西言葉が使われる 方言には 参勤交代による輸入の方言…でもきっと優しく思い出に残ったから 帰ってからも使ったのだろう。それによって親近感も増して 共通の 人間関係が育ったのかも知れない。方言を通じて同じ言葉を使う人と人の関わりも いろんな面できっとプラスになったのでは…。

方言がこのようにして使われ育ち守られて 今も生き続けている事は その背景に人の心のふれあい 人の心の優しさが生活環境にもきっと 大きい役割を果たしてきたのでは。

野津原方言集……続編 No. 4

題字……………田口 勲 表紙画……………松本英明
タイトル題字……………姫野順子 カット……………那須政子
タイトル画……………佐藤憲博、赤星麻衣、太田明日香、佐藤謙太、
佐藤聖人、白石和樹、佐藤小由貴、森光太郎、
高崎可奈恵。

協力《故人》……………橋本小次郎、小野 肇、加藤正人、利光節子、
紙面協力……………田崎奈良熊、河野アヤ、川西哲男、佐藤昌史。

資料協力……………新聞 放送資料、旧野津原村青年団、若草子供会、
野津原町史、野津原町文化協会放送部、あしあと、
上浦町方言研究会、月のうた、宇曾山物語、
参考資料……………大分方言《高田一彦》、テンバクロ《宮本輝彦》
故郷の唄《加藤正人》、文化財こぼればなし。

……………
野津原方言集『続編No.4』発行に寄せて……………会長 甲斐英行

方言集前編発行から8冊目の『続編No.4』を ご愛読頂いている
皆様方にお届け致します。多くの皆様にご支援ご協力を受けて 今
回も限定100冊ですが 目標の続編No.5の発行めざして会員は
取り組んでよかったと自負しながら 発行出来た喜びも味わって
います。誠に有り難うございます。

10のジャンルに分類した内容に
は 方言の温かさがきつと感触頂けると思います。次回続編No.5は
方言単語5000語の集大成を 発行して調査会も終了の予定です
。引き続きご愛読頂ければこの上ない幸せと 厚く感謝申しあげま
す。

もくじ

- ◇ はじめに…………… 1
- 表づけ…………… 4
- もくじ…………… 5
- ◇ 伝わった芸能、文化
 - 田植え唄…………… 8
 - 朮すり唄…………… 10
 - 豊後浄瑠璃 渡辺綱… 11
 - 鶴崎おどり…………… 14
 - 竹刀おどり…………… 15
 - 大分県行進曲…………… 16
 - 団七おどり…………… 17
 - ななせしぐれ…………… 18
- ◇ 若えもん活動男し女ごし
 - ワラすぐり…………… 20
 - 薪とり品評会…………… 21
 - 甘酒ん味…………… 22
 - もらい湯…………… 23
 - 春田おこし…………… 24
 - 朝草切り…………… 25
 - 田植えサナブリ…………… 26
 - ふとん洗たく…………… 27
 - 水まわり…………… 28
 - 盆おどり…………… 29
 - 屋根がえ…………… 30
- ◇ こぼればなし…………… 31
- ◇ ちょつと一服
 - 忘れ物…………… 38
 - いっぺんサセナー…………… 39
 - ここじスルンナ…………… 40
- ◇ 子供ん世界…………… 41
 - 雪足 羽根つき…………… 42
 - 麦踏み 甘酒…………… 43
 - ツバナ サトガラ…………… 44
 - ワラビ ぜんまい…………… 45
 - 茶つみ苗代…………… 46
 - 田植え テマリコ…………… 47
 - 七夕 夕焼け…………… 48
 - ヤセウマ 団子…………… 49
 - 朝霧 十五夜…………… 50
 - 亥の子 モクセイ…………… 51
 - 湯わかし ヤッコメ… 52
 - お使い 餅つき…………… 53
 - 子供ん世界 夢…………… 54
 - チンチン電車…………… 55
 - こぼればなし…………… 56
- ◇ 方言単語
 - 単語…………… 57
- ◇ 五助馬子唄街道ばやし
 - 寒うねーかち…………… 62
 - 炭うおせだす…………… 63
 - 鍬にちーた泥…………… 64
 - 子牛んウブ声…………… 65
 - 水車小屋ん語らい…………… 66
 - 早う行きなー…………… 67
 - 馬およこわせ…………… 68
 - 柱松…………… 69
 - 旗立てば…………… 70
 - 黒砂糖ひやき…………… 71

アイと答えた…………… 7 2	七瀬川子守歌…………… 8 7
在所恋しや…………… 7 3	八輪 五徳…………… 8 8
五助んひとりごと…………… 7 4	◇ あげんこつこげな話
◇ 古い唄新しい歌	水飲み通った竜…………… 9 1
豊後岩戸 亥の子歌… 7 5	もろもろばなし…………… 9 2
竹刀踊り 春徳丸…………… 7 6	竜の恩返し…………… 9 6
◇ おちゃおけばなし	地主と小作人…………… 9 7
寝ゴザうち…………… 7 8	のろし台…………… 1 0 1
牛見んよそんし…………… 7 9	涼しいうちが気持ちいい
出針は悪い…………… 8 0	…………… 1 0 2
松根油 カッコー…………… 8 1	◇ あとがき…………… 1 0 3
祝言かる所帯持ち…………… 8 2	続編№ 5 予告…………… 1 0 3

=====

方言調査会…甲斐英行、佐藤吉晴、小野寿祐、佐藤源治
那須政子、赤星ヨシミ。

編集…甲斐英行、佐藤吉晴、那須政子、赤星ヨシミ。
カット…那須政子。プリンター…佐藤源治。

監修 製本…小野寿祐。

平成14年3月1日 発行

発行…野津原町今市小原〈代表…甲斐英行〉野津原方言調査会
〈☎097…589…2807〉

事務局…野津原町本町〈☎097…588…0092〉

仿照 基础 能力 变化

野津原のあの唄この歌から 『田植え唄』

腰の痛さにこの田の長さ 四月ヨイヨイ五月の日の長さ
サンヤレ 日の長さ

四月ヨイヨイ 五月の日の長さ

紺の前かけ松葉の模様 こんに待つとは 是非がない

わしに通うなら裏から通え 前は車戸で音がする

音がするなら大工さんを雇うて 音のせぬようにしてもらえ

わしとあなたはお倉の米よ いつか世に出てママとなる

わしの思いはネコ岳やまの 朝の霧よりゃまだ深い

わしとあなたは羽織の紐よ 胸で辛苦を結び合う

田植えん時期いなると近所んしどもが テマゴーチ植えよった。
男しゃ牛いモーゴ一引かせちシロカキ 女ごしゃ泥田になろーじ
四っんばいん格好じ一株一株手早う植ゆる。子供ゃ苗運び 綱引き
小昼運び 子守やらそれなりーに仕事う分担しよった。梅雨頃じゃ
き濡れしよぼくるる。水ん中 じょうじゃきダッチシマウけんどそ
げんこつ一言うちよれん。皆んなじワアワア言うのんダリが半分に
なるごたる。

若え娘が見ちよるもんじゃき 男しどま大けん声じ牛うシビイチ
泥水 けちらけーちせせろしゅう動く。そんなかめーにゃ田植え唄
も聞こえちくるんが こん唄じゃつた。時にゃ節がはずれちどっと
笑いで一た。そんうちー『コビルデー』ん声に 笑顔がこぼるる。

小昼ん頃いなるとどっかるか 茶碗酒も回っち来る。ダリモデチ
ョルキつい一杯が酔い回る。明治ん頃お諏訪村があっち小昼ん頃に
『墨ぬり』うする しきたりがあった。ほどゆう酔うた所じ隠しも
った墨が出ち 誰でんかれでん相手ん顔に墨う塗さげ一た。あっち
でんこっちでん そりゃも一賑やかうなっちお祭り騒ぎになった。

顔をまっ黒うしたそげんしはそのまま 近くん役場に向かうちか
る オオゴチナツタ。泥足んままじ役場ん事務室に入るや 村長も
役場吏員も捕まえち顔に墨う塗つくる。そのままサーツ引き上げ
ちしもった。こうしち一息入れた後は又田植えになっち 夕暮れま
じ続く……腰ん痛さにこん田の長さ…顔はまっ黒日焼け顔……

墨塗はもともと 植えこんだ稲が黒々と元気に育つごつ 祈った
もんらしいが押しかける方もなら 迎える方も待ちよつたち言う
。思いやり温かえ気持ちん通いあいか。役場吏員も何の抵抗もせん
のも 農家がよけりゃ皆いいの気持ちの現れじゃろう。役場んしも
田植え終わりん頃にゃ毎日 戦線恐恐しちよつたらしい。

明治40年に諏訪も野津原に合併 役場もやんがち統合されち
墨ぬり奇習ん行事も大正ん中頃に消えたごたる。こん墨塗と言ひ田
植えん頃ん息抜き行事なんかも ひょいとすりゃ若え男女が恋心
を見する場面 田植え唄は心ん表現じゃつたんかん知れん。ひょかん
と思いで一ち状況を空想すりゃ 思わず噴き出しとうなるぐれ一
腰ん痛さ体ん辛さ苦勞がゆう分かるごたる。

昭和50年代後半になった頃に 民謡調査取材で旧諏訪村を尋ね
ち 当時若かった思い出話としち古老から聞いた そん顔にゃ若さ
が残っていたごたる。色気と食い気があるき一な一 そげな言葉を
何回も使うち話しちくれたしも もう亡くなったけんど思いで話は
チャント生きちよるき。幸せな人生でんあったんかん
知れんちも思う。



田植えの辛さも想像以上じゃつたが 籾すり仕事もひじい仕事ん一つじゃつた。それでん稲刈りがすんじ今年しゃゆう出来た。そげん喜びも残りん籾すりがまゝあつた。

『籾すり唄』 わしが思いは宇曾さん山の
ほかに気〈木〉はない 待つ〈松〉ばかり

わしに通うなら裏かる通え
前は車戸じ 音がする

主とわたしは硯の水よ
すればするはず こゆく〈濃く〉なる

臼は台でもつ 中ごうで締まる
私しゃあんたの 手で締まる

土製の臼を人間の力じ動かしち回す 籾すり唄でん歌わんとそりゃとてん だっちしもうちヤッチョラレン。やり木をセツタリ押したりしち臼を回すき 若ゑ力持ちがここにつく。交替もいるき若ゑしが5 = 6人ない。籾うかくるし〈入れる人〉 籾かまげを運び出すし 選別する〈まんごく〉し 俵に量っち入るるし 米俵にするし 米俵お倉に運ぶし まゝ20人ぐれーわいるごたる。

そんうちでん臼う動かす引き手組が重労働 要領もいるし早うでん遅うでん悪い。大正10年頃になっちえーと早ゑ所じ 発動機が出はじめち機械が籾すりうするごつなつた。それまじん籾すりにゃ苦労もあつたけど 隣近所がテマガイしながらの仕事うしよつた。もんじゃき喧嘩もあんまりせんし喧嘩してん 結局お自分が損ぬするこちーにもなつた。助け合うそげな人間の豊かな気持ちが 自然と育ち護られちきたんじゃろう。そげな籾すり仕事ん時でん若い人ん 気持ちが込められた唄があるなーいいもんじゃなー。

豊後浄瑠璃 『渡辺ん綱』

そん昔 渡辺ん綱ち言う あってんあられん強い侍がおっちょつた。今朝も夜明けん鐘ん鳴るか鳴らんうちかる 早ずり起きち裏ん谷い行っち 面うのんぼりくんだり かき洗うち戻っちくるが早えか 昨夜ん残りん だんご汁う引っぱり出えち ついじゃ食いついじゃ食いよった。

パッパ パッパち雪隠に駆けくうじ 手鼻うかみかみ尻けはぐっち 朝糞う小山んほず巻き出えた。家来共う叩き起こしち『馬う玄関にどびき回せ 俺はこれかる愛宕ん山ん鬼退治に行くんじゃ』ち 言うたところ かかん おへまどま納戸かる赤えイモジんまま こけたり起けたりしちつうじ来た。

『綱やん綱やん お前んようなムテーナしゃ ありゃせん。こんセッキん忙しいに あろうあつたけん子は皆こん私に ほたりかけち どれもこれも洗濯物あ着くじーち おん大将頼光様でん いかん所りい なし行くこつがいるかえ。ち言うたら 『われ共ん知ったこたーねえ…そくーのけ』ち言うち おへまん尻たんべろう蹴ち蹴上ぐりゃ おへまん奴ああ おのきさんぱちーひっくりかえる。

そん隙う見計らうち源五綱 鎧冑もそこそこにやっちゃかまっしよこち 馬に跨り羅生門に向けちつうじ行った。

愛宕ん山まじつうじ来たら 馬はいがなく風は吹く。まこちー勇ましい事じゃ。あんげさね行ったり こんげさね来たり 行ったり来たりするなかめー 一天あたでーかき曇っち 現れ出でたる赤鬼んげどー。羅生門の棟いへえつくばっち にゅーとばかり片手う突き出えち 綱ん冑んしこるうわっしと ひつつこーじ あっちいぶらぶら こっちいぶらぶら振っち振っち振りくりまわす。

綱が腹を立つるも立てんか 腰いせーちよる大けなダンビロー ど引きにい

じ 親代々の鱈丸 切るる切れんなかじ屋がしっちょる。光れ光れち言うちめったやたら 無我夢中てんしょむしょうに 振り回す。刀ん切れ味 腕んさえ 手ごたえあっち鬼ん手首う ばっさとばかりに切り落としたごたる。南無さん しもった あいたたった 悲鳴をあげち 赤鬼は血の雨降らせち 雲か霞と逃げうせちしもうた。

鬼ん手ちゅうぬ見りゃ 赤うじ長うじ毛がはえち 指ん先きゃ 栄螺ん尻んたんごつ へちくりよごーじよる。喜くうだ源五綱は 萌黄んふろしきい鬼ん 手首う包みくうじ 腰にしゃんとぶらさげち ぴらっとばかりに馬に飛び乗り 人鞭当てりゃカッカ カッカ カッカ カッカち わが家をさしち引き上げたり。

そいかり三日もたった頃 近所んとりあげばあさん 片手つっこみ高下駄へーち カランコロン カランコロン カランコロンと やっち来た。『綱 わりゃこんうちゃー偉え手柄う立てたちゅーじゃねーか そんな鬼ん手ちゅうのう こんばばにちよいと拝ませちくれんかえ』 ち言うたら 『いんにゃなに とっけむねーありゃー女ご子供にゃ 見るもんじゃねー』 ち綱はとてん うちあわん。『それに違いはなかるうが 俺とわがとは生まれた時かる 長えつきあいじゃねーか 年寄りん目の保養に なんてんいいきちよいと見せちくりー』 ちばあさんな拝みたおした。

見せちくりー 見せられん 見しい見せん 見しい見せん 見しい見せん の挙句ん果てに根負けしたか 源五綱 『えーえもう一面どくせー』 ち言うと納戸んすまん古びつかる 鬼ん手首うこさぐり出えち 『腰う抜かさんごつ見りゃーいいわい』ち ほたくり出えた。ばあさんは当てち比べち見ち眺めち 『こりゃ俺ん手に間違いねえ』 ちゅうが早えかぱっと手首うひったくり 天井めがけち飛びあがり 煙り出しう蹴っち蹴散らし蹴破っち こっけむしゃりに 天に消え失せちしもうた。こりゅう眺めた源五綱 残念無念 口惜しいや まこち手抜かりたぁこんこつか。囲炉裏んかまちい食

いさがっち 男泣きにぞ泣きにける。ベベン ベベン ベン
ベン ベン。 ※ ベベン ベベン ベン ベン ベン…これは
浄瑠璃語りの合いの手の三味線の音 はじめと途中の区切り目
終わりに入る。

★ あってんあられん…とても想像につかない事。うちかる…そ
れから。早ずり起きち…すり抜けるように起きて。面う…顔
を。のんびりくんだり…上に下に。かき洗う…忙しく洗う。
引っぱり出えち…引き出して。ついじゃ…よそっては。雪隠
…便所。手鼻うかみ…手の指で鼻をかむ。尻けはぐっち…尻
をはぐって。小山んほず…小さな山のように。巻き出えた…
出した《用足しした》。どびき…引っぱって。かかん…奥さ
んの。イモジ…腰巻。つうじ…走って。ムテーなしゃ…無茶
な人は。ありゃせん…ありはしない。セッキ…伏目区切り。
あろうあったけ…あるもの全部。ほたりかけた…任せてしま
って。着くじいち…着汚す。いるかえ…しなくても。そく一
のけ…そこをよけて。あおのきさんばち…後ろ向きに倒れる
。やっちゃかまっちゃか…無茶句茶に。つうじ…走って。ま
こち…まことに。あんげさね…あちらに。こんげさね…こち
らに。あたで…急に。へえつくばっち…ひらくたになって。
げどう…ろくでなし。ダンベラ…平たい刀。ど抜き…引き抜
いて。切れんな…切れなくても。めったやたら…目茶句茶。
ごたる…ようです。しもうた…しまった。あいたった…はず
みで。逃げうせちしもうた…旨く逃げてしまう。はえち…生
えて。尻たんごつ…尻の形。へちくりよごーじよる…へんて
くりんに曲がって。しゃんとぶらさげち…しっかりさげて。
びらっと…急に飛び。そいかる…それから。わりゃーこんう
ちゃー…あなたはこの前。とっけむねえ…とんでもない。あ
りゃー…あれは。うちあわん…取り合わない。見しい…見せ
て。納戸んすまん…寢室の隅。ほたくり…捨てるように。こ
っけむしゃり…急に。こりゅう…これを。こっか…事か。

肥後領以前の唄であるが肥後鶴崎に 唄いつがれ踊りも盛んにあ
った『鶴崎おどり』から…猿丸太夫…

来ませ見せましょ鶴崎おどり

いずれおとらぬ花ばかり ヨイヨイ ヨイヨイ ヨイヤサー

咲いた咲いたよ踊りの花が

里の香りを染めて咲く ヨイヨイ ヨイヨイ ヨイヤサー

娘島田にちょうちょうがとまる

とまるはずだよ花じゃもの ヨイヨイ ヨイヨイ ヨイヤサー

揃うた揃うたよ踊りが揃うた

品のよいのを嫁にとる ヨイヨイ ヨイヨイ ヨイヤサー

昔しゃ肥後領百千〈モモチ〉の船が

上り下りに寄る港 ヨイヨイ ヨイヨイ ヨイヤサー

『左衛門』

豊後名物その名も高い 踊る乙女の品のよさ

ソレエー ソレエー ヤトヤンソレサ

清き流れの大野の川の 月に浮かべた屋形船

ソレエー ソレエー ヤトヤンソレサ

逢うてよいのは夜更けの月さ お前薄情な枯れすすき

ソレエー ソレエー ヤトヤンソレサ

下る白滝情けの金谷 末は鶴崎だきね島

ソレエー ソレエー ヤトヤンソレサ

お名残り惜しくは御座候えど　まずはこれにてとめます
ソレー　ソレー　ヤトヤソレーサ

これらん踊りも野津原町じゃ　よう　踊られちよつたが殆どが口
説きじゃつた。その後になっち山ん仕事しん人たちが　持ちこんだ
『竹刀踊り』も定着しち　のちい青年団なんかが踊りで一た。そん
口説きも奥州仙台ん話に始まっちゃう。

『竹刀踊りかる…団七踊り』

ここに説き出す志賀団七の　サノヨイ　サノヨイ
いわく因縁口説いてみましょう　サノヨーヤーセー　ヨーヤーセ

国は奥州仙台の国　サノヨイ　サノヨイ
頃は寛永14年　さのよーやーせー　よーやーせ

※　国はごきない河内の国よ　サノヨイ　サノヨイ
河内国では信義長者　サノヨーヤーセー　ヨーヤーセ

末の世を取るラントク丸は　サノヨイ　サノヨイ
歳は15でまだびたい　サノヨーヤーセー　ヨーヤーセ

口説き唄には外から入ったものや　持ち帰ったもの　伝わったもの
なども多い。色気のある口説き唄もどこからか入っている。

一合ます二合ます三合ます　四合ます五合ます六合ます　七合ま
す八合ます九合ます　私とあなたは一升ます　一緒になったら寝
られます　寝らるりゃ布団が汚れます　明日は布団の丸洗い　ア
ラ　ヨイショコラ　ヨイヨイヨーイヨ　ヨイヤーサー

こんな口説きも人に罪を創らない　暖かみのある唄
であり踊りでもあった。

『大分県行進曲』 昭和10年豊州新報創刊50周年記念して
歌詞を公募一位入選作…庄武憲太郎作詞
江口夜詩作曲…節回しがヨナ抜き五音音階
で構成されている。

耶馬の流れの水清く 久住の原の空高し
南蛮船の行き交いし 波路はいずこ豊の海

昔大友宗麟が 残せし文化花と咲き
世に六聖の名もしるく 千代に輝く自尊の碑

みことかしこみ清磨の 遺烈は香るいまなお
神のみいづは照らすなり あおげしづめの宇佐の宮

つきぬ温泉のささやきに あつき恵みの栄えあり
みのる田畑うるわしく 日に開けゆく12郡

空は晴れたり野に山に ああ百万のはらからは
躍進の意気ほがらかに 歌うわが里豊の国

※ 加藤正人著 続『ふるさとのうた』 から。

戦後復活したのは昭和35年 大分合同新聞が創刊75周年を
記念して 立川澄人さんの唄で再びレコーディングした時から
。大分県全域を『故郷としてとらえ』 歴史風土を歌い上げた
歌はこの 『大分県行進曲』だけ。と 著者の故人になった
加藤正人さんは結んでいる。野津原町の里唄 民謡調査に来ら
れた際に協力した巡り合わせで 故郷民謡『七瀬馬子唄』の
曲をつけて下さったのも昔日の思い出となった。

原稿を使わせて頂きながら ご冥福をご祈念
申しています。



『野津原よいとこ』

故人…橋本小次郎

うわさが高い 野津原に
県民いこいの 大自然
鳥のうたごえ あきらかに
機能回復 お湯もわく
ああ 野津原は よいところ

暗い世の中 明るい施設
のびゆく丘で 体力づくり
誰が名づけた のびゆく丘と
子供もよろこぶ あの笑顔
ああ 野津原は よいところ

ついて来たけど 球場までも
みればまわりは 人のなみ
未練のこして 騒いでみても
時は許さぬ 5時となる

※ 若え頃かるゆう 作詞されよった精農家。即興じ唄も作っち
村報なんかに投稿しよった達人。こん歌詞も人日かる教わっ
た また聞きんもんじゃき ひよいとすりゃ違う所があるか
ん知れん。5時になったち言うなー たぶん昼間ん暑いぬヨ
ケチ こん頃かる一仕事しよったんかん知れん。

『団七おどり』 …………… 故人 加藤正人採譜

ここに説き出す志賀団七の ヨイヤセー ヨイヤトセー
いわく因縁口説いて見ましょ ソリャーヤート ソレソレ ヤッ
トコセー

国は奥州仙台の国 頃は寛永14年に

時の城主は伊達政宗公 お領内なる坂本の村

作る百姓名は予茂作と それに姉と妹がござる

姉の宮城の花よと咲くと 妹しのぶは13歳に

母は病で早死に別れ 親子3人貧しき暮らし

春は水ひき苗代ふんで 夏は田植えや田の草取りと

ある日予茂作姉妹つれて いたる所は川崎街道

『ななせしぐれ』 ……………いしはらみき

宇曾の峰から七瀬を見ればヨ 可愛いあの娘のスゴキのような
解けて流れて明日はホンニ 明日ははずくで咲くのやら
トントントンカラリと 咲くのやら

瀬音恋しいゃ七瀬を見ればヨ 愛しいお方の呼んでるような
石に砕けてよってホンニ 寄ってしっかり抱くように
トントントンカラリと 抱くように

秋の七草七瀬を見ればヨ いつか二人の微笑むような
甘い夜風の星もホンニ 星も流れる夫婦星
トントントンカラリと 夫婦星

※ 野津原を題材にした唄が多いのは それだけ
素晴らしい故郷だからだろう。人の心に残る。



★ ダンゴ汁……小麦粉と塩とお調合しち練り いっとき寝せちよ
く《寝させる事で馴染みあう》。10センチぐれん
ダンゴ状にしたんぬ《したのお》30センチぐれーに延ばしち
中かゝる 二つにしゃく《割く》そしち煮えた湯になんこむ《素早
くいれる》 浮き上がったら出来あがり。手元にある野菜なら何
でんいい 味噌味が決まり手。熱い時 冷えちかゝる 温めなおし
ち《なおして》 それぞれん味がたまらん《格別》。百姓ん夜ん
主食じゃつた《でした》。

★ 組石橋……参勤交代ん頃に誰が架けたか 石うどくかゝる《どこ
から》運うだか厚み30センチ横幅60センチか。
見事なそこ石ん上に水ん抜け道まじ《まで》作り 頑丈じゃつた
《丈夫な》き今でん 生活道路じ使いよる。長さが3メートルか
不思議な橋がだまっち《だまって》 人ん役にたちよる。

★ 弘法まわし……盆の24日に御輿に仏様お乗せち回る。組内じ
無病息災と五穀豊饒を願うち。あるしけ《台風
》ん年御輿う出さんじゃつたら稲は不作じ 悪病はひろがった。
それかゝるはどけな雨降りでん続くるち言う。仏様を御輿じ回すな
ぁ珍しいが昔 きっと仏様んご利益にあう事があつたんか《あつ
たのでしよう》。

最後には皆が集まっち盆踊りをするが そんな家
も決まच्चよるき里帰りしたしも《ひとたちも》 そこじ待च्च
よる浴衣姿がなんとん言えん。盆に帰च्च弘法回しまじおると《
いと》 母親は忙しいちいいながらでん やっぱ《やはり》子
や孫とん居る間がとてん《とても》 うれしいんじゃろう《嬉し
いのでしよう》。

素朴な行事もだんだん少のうなるんは《少なくなるのは》 悲
しいけん《けれど》これも時代のする《なせる》事じゃき仕方
ねえか《仕方のない事か》。



★ 遍路めぐり……菜の花が咲きレンゲがまぶしゅうなると 遍路
ん鈴ん音が田んぼ道に鳴り響くごつ〈ように〉
なる。明治になっち四国巡りに行けんしの〈行けない人〉 為に
作った88ヶ所巡りん札所を 8日間じ回り先祖供養と自分たち
ん 無病息災を願う春ん風物詩。緑が増えち〈増して〉きた畦道
う白衣姿ん 遍路さんが歩く絵になるもん。

★ 子供ん食いもん……子供は好奇心があっち手あたり次第 何で
ん口い入れち見る。ほんなどげなん〈それ
ならどんな〉物う食うたか〈だべたか〉。生そのままに…ツバナ
、サトガラ、トーマメ、ウメ、イチゴ、アケボ〈アケビ〉、カゴ
、カンカラン実、ツツジン花、クワイチゴ、ガラメ、クリ、テン
ポナシ、トイモ、ツバキン蜜なんか。果物…ユズ、ナツミカン、
カキ、ブシカン、キンカザン、グミ、ナツメ、ビワ、ハランキョ
ウなんか。魚…ハエ、カマスカ、ドンク、コイ、フナ、アイ〈鮎
〉、ドジンボシ、エビ、ニナ、タニシなんか。

こんほか…葱味噌

、いりこ味噌、のびろ味噌、ヤセウマ、タンサンモチ、サケモチ
、ヒヤキ、ジリビヤキ、コガシ、ハッタインコ、ホシイ、チマキ
、アラレ、カンネモチ、イモアメ、ホシガキ、カンコロ、糠漬け
味噌漬け、梅干し ラッキョウ、トーフ、ウドン、アブラゲ、
ソバ、ニワトリメシ、オコワ、アマジル、タマゴスイモン、黒砂
糖、トイモアメ、ヤッコメ、イリゴメ、カタクリ、サンチン飯。
こげなもんち〈物と〉思うごたるもんでん〈物でも〉 他に食
い物がね一時代 せいぜい知恵う絞っち作ったもんじ我慢しよった
もんじゃ。それが当たり前でん〈でも〉あったき〈あったから〉
かん知れん。

★ 七瀬音頭……野津原にゃ幾つもん歌が出来たが それだけ歌ん
生まれ育つ気候風土がいいけん〈いいから〉じゃ
ろう。七瀬音頭もそげな優しい故郷んしの〈人たちの〉思いが

方言

若えん活動

青年団の

男
女
活動

そん〈1〉 ワラすぐり

『こいさどきー集まるんかえ』 冬ん若えしん仕事が毎晩共同じはじまる。米すりが近うなっち俵う編むそん準備に ワラをスグリ縄うノータリ仕事がナイトーある。昼が短けーもんじゃきドウシテン 晩にヨナベ仕事が重なちくる。けんど若えしゃそれほうが共同じも出来るし皆が集まるこちー 楽しみも増すき能率もあがる。『ハカドルノヤ』『ハナシンジョシヨルンジャンネー』 そげな憎たれ口う言うのん冷ヤカシでんある。

『やんかたんぬスグルカ』『ヤー俺方でんいいけんど クジが降りゃせんか。由ちゃんかたが残りちよりやセンカのー』『そうじゃのーほんな由ちゃんかてーするか フレチョコカニャ』『わかった俺がひと走り言うちくるわい』 気心ん解った友達たいいもんじすっ飛んじ行った。

『こいさ由ちゃんかてー行くき』『ほんなはよー飯う食わにゃ』『飯あいいわな 甘汁炊くち言いよったき』『や 行くぬー知らんのじゃねーんか』『知っちよるわな あいつがそげんこたーサジーキ ちゃんと打合せちよるわな』『そげんこつか 若えもんないのー』『お前どうも ソゲーアッタジャローガエ』 親父もちよいと冷やかされち赤うなった。

一の暮れ時分になると皆んな寄ちくる。藁がツボサキ小積みあげち若いしを待ちよる。ここん娘がもう弾んジョルゴタルんも自分が好きなしが来るき それも一つあある。『ちよいと先い甘汁食べて』 嬉しそうな声が響き夜空に星が輝く。『あいつがこんきまあいいわな』『いいこと待つちよらんでん』『そりゃー悪いわ』『……………』 そん一言が娘にシチミリャ どんくれー嬉しい事か好きなしが皆かる信頼されち。『おすーなっちすまん』『本当じゃ皆んな待つちよつたんで』 皆は顔見合わせちクスクス のや。

青年団のゼニ集めに品評会がある。セッキになっち正月やら冬ん間にゃ 働いち稼ぐ事ん共同作業が団結う強め 交流もあっちそん中じ仄かん恋も芽生ばゆる。男しは薪とりに山に入り 薪やら割木やらを運びでーちセリにかくる。地区んしも青年団のするこちーにゃ 応援しち高う買うちくるる。中にゃ言うホズ出すちチョコット 喜こばせちくれた。

大けな割木ん束が竹縄じくピラレ 生木ん姿がみずみずしい。若えもんの気持ち心が伝わるごたる。どうでん10貫ぐれーはありゃせんか ヨロケゴシじゃとてんカカエモウサン。『うち方え運うじくりー』『いいで』 若えしがヒョイトかたぐると サッサと歩きでーた。遅しい羨ましいごたるうしろ姿。

女ごしは野菜をメイメイが取り揃えち 持ちこむと女らしい仕上げになった そん野菜が朝日に眩しゅう光る。丹精こめち作ったんか母じょうがこん日ん為に それとんババさんが手入れシチクレタカ。家内ん優しさが温かさがこめられてんおる。色ん白い娘にゆう似た大根ほんのり赤えニンジン 絵になるごたる。

『あつーハワカニャ悪いで ツボ先う片ずけちょけや』 動きも早え若えもんのするこちー文句も言わん コシヤクナち言いてーごたる事もねーき 笑顔があっちこっちかるヤリカクル。『ドゲーカ儲かったごたるか』『お蔭じデー分ゆう売れたごたるわな』 嬉しそうな顔で返事した団長がペコンと頭うさげた。

皆が協力しちくるるのん日頃かる 若え者らしゅうしよりゃこす。自分どうも通った道 そしちこげな奴も追いかけて来る道。受け継がれた田舎ん素朴な行事が 人ん心う気持ちう又ひつつ強う結びつけた 青年団品評会。

霜柱が今朝もタマガルゴツ立っちよる。昼はヌクカローガ朝方ん冷て一な 手先まじ痺るるごたる。ヒビ アカギレが疼くたんび里じ親任せんイノチキしよった頃が 恨めしい。親が起けんうち一洗たくしたら ツーンと凍っちしもった。いつべん凍らすると乾くにヨザンニかかる。

石けんもコンモーナッチ中々買うちくれんき コボクリユウ手先じ寄せ集めちモモグル。なんちゅう哀れな姿じゃろうかち 恨めしゅう自分ぬ責めち見るが。婿じょうがあくびゅしながら起けちくる。『駄飼いをせんママ食ぶるデ』『ケサ寒いのう』 腹が立つごたるがそこが嫁ん悲しさ。

陽がえ一と指しはじめたが霜は知らんふり 昼間では凍っちよるき麦ん世話も骨折る。地下足袋ん足先が冷とうじ 時々足う動かさんとモチン。麦踏みすりゃ葉が凍ちよつち折るるき 土入れをするしかね一。親がそげな事う考えちよるごたるき あんまりモチン悪いもんじゃき。解くるまじ土入れするこち一しゅ一。

凍った霜がちっとんずつ解けはじめた頃 向かいんしが手招きする。『ウットーナ』 手真似じ自分かえち問いかけたら 『そうじゃそうじゃ』 ち手真似じ又誘うちくれた。鍬を溝に隠しち畦道う向かいに 何の用事かしらんが声を出されんのなら 内緒ごとかん知れん。霜が解けるたんび音がしち『頑張れ』ち 囁くごたる。

『早う寄りよ甘酒が沸いたき』『ちゃー甘酒が』 嫁ごに声をかけちくるる優しさ 甘えてヨバリユウカ。朝ん冷たさがいっぺんにふっ飛んし行くごたる。腹のシンまじシミワタルごたる甘酒ん味。人ん情けがここにも咲いち若い嫁が これからハリコム力を加勢しちくれたんか。『ウメーカエ』『おいしい……』後は言葉にならない大霜の朝。

『おごっそんなりやんした』『湯かげんなよかったな ゆつくり入ったかえ まー寄んなー』『おおきに又寄るき』風呂釜がみなみな買えるるはず金持ちでんねーき てーげーじゃもらい湯。薪もんなあるき持ちいくけんど 隣近所じゃもう親子んごたる仲。いい頃う見計らうち借りに行く。

早う入らると声うかけちくるる。頭がウツんか梅干しう顔ん横たんに貼ったババサン 『湯か空いちよるき入んなー』『悪いがえーこげー早う』『うちかた皆んなもう入ったき』『おおきに』朝かる麦んナカウチしたきーじゃろー腰がスクルル。コゲントキャーひと風呂入っち早う寝りゃユウナル。

『ほんなすまんがヨバリューカ』『早うインナー』イデサラエも始まっち苗代シコーせにゃ暑くうなると時のめー 麦がうるる。汗が流るるごたった昼ん暑いんが 嘘んごつ涼しいなーまゝ春じゃきーか。ノビル味噌がうまかったきガイトー食うたもんじゃき 腹おつつばるぬ湯の中え沈むるとダリが いっぺんに抜けち行くごたる。

ババさんが『湯かげんなドゲーな』 声をかけちくれちクドンハタンさしくべうセリクーダ。『丁度いいわな おぼんな頭がいてーんな梅干しなんか貼っち』『寒かったきーか ずんずんしちウズクモンジャキ』『気をつけなりーえ 今頃ん風邪ゃなおらんき』『入れ薬う飲っただけんど年寄にゃ効かんゴタルワナ』

『あーあ』 ひとつあくびゅしたもんじゃきババさんが たまがった。ちっとクビューカ風邪うひくで』『そっじゃなーひとくべ焚くとアトンシガよかろうき』 煙りが囲いのねー風呂場に容赦もねー入る。それでん人ん優しい温かな気持ちちが そげんこたー帳消ししまうごたる もらい湯んホノボノスル語らい。

『貧なものの入湯』ち言うごつ 自分かたん家ん仕事に比ぶりゃ湯に入ったごつラク。麦ん取り入れやら田植えが始まりゃ ナガセもあっち道がクズルル。ハルサキン今しちよかにゃ苦役ん日。それぞれ鍬やら鎌やら 年寄りしゃまゝ監督ち言う所か。それでん若えしに花お持たせち 年頃ん者ゝ先ん角かる向こう側おしちくりー。

そりゃ一年寄りしが気を効かせた 配置じ『お前どうは若いえ者 どうしじ話しながらしよや』 ち……娘たちゝもう嬉しいやら恥ずかしいやら…『ゆうべウットーカタ ニナおもろうたきユデたら 引っくっじしもうち中々抜けんのじゃなー』『抜けんごつなつたえ 真剣クワエタンじゃねー』『チュウカンガモウ』 ユズんイガじ抜いたらエートぬげち。ハナシャテンショムショハズム。

春田起こしがはじまるともう忙しうなっち 朝寝坊もデケンけん ど米がゆう出来んと困るきハリコマニャ。シビトグサン花が美しうセーチョル今取っち陰干ししちよきゃいい。フツもシコッタき餅う炊く時やカンカラとゆう似合う。ヒトヨコイしよつたら顔見知りん娘が ヒヤキう包んじ持っちきちくれた。『すまんなゝ』『……』

春とんなりゃ自然も人間もどうやら 気持ちが浮き浮きしだしたごたる。折角くれたき畦ん頭めえ腰かけち口い 黒砂糖ん風味が何とん言えん味。それもやっば若え娘がクレタとなりゃ尚更 風が吹いちポンポン草う揺らする景色に 色ん白い娘ん仄かな香りが漂うごたる。

時のめーに暑うなっち麦がウレデータ。イドラン花が咲く頃にゃ夜露に濡れち 水回りう口実に娘がついちキタガルんじゃと。若えしが楽しい夢う結ぶぬ年寄りも 気をきかせにゃなるめー。蛇に気をつけな一え 母じょうが心配するな一蛇か鯉か虫かそれとん……

そん〈6〉 朝草きり

おおぼこは道端にゆう葉をヒロゲサゲーチョル。人が通る時い種をヒツツケチ運んじもらうき どげな山ん中でん道がチャントチーチョル。朝草切りに行くなー若えもんの仕事日課でんある。夜遅うまじ遊び歩いちょつてん 朝の草切りにゃ目を赤う腫らしてん行く。それが又若えもん同志ん楽しみな一時でんある。

牛う追いカケチ決まった道う通るき 道草う食い食い歩く牛ん後う若えしが ヨンベン話やら夢んごたる話やら。年頃ん娘はそれが又おかしいち言うんか。本当は嬉しい時間でんある。ミスボラシイ格好でん心あ美しい瑞々しいき。ソゲナ無垢な若え人たちも心ん中にな 好きなシモアリヤ言えん想いが募るしも。

ソウコウするうち山に入るとめいめい 切り始めた。中荷も入れち7輪早えしゃモノノ一時間もすりゃ。『出来たか 加勢しゅうかほら』 手早えしが一輪くびると転がした。娘たちゃ甘えもあるんか声がかかるぬー待つちよる。おおかた皆が出来ると休憩する。汗と露が全身を濡らしち男らしさ女盛りを。

『あげんしはどげーなったんか』 タラン二人が目に写ると心配せんでん解ちよるに ちょいとと言うちミチ話ん肴にする。もうすぐ祝言があるけんど山は山なりに ムードも出るんか。一時すると話し声と音がしちこっちに向かう。もう牛にオウセち帰り支度も。『何かシヨンノンカトモータが早えのー』『トッポー言うな イヌレゾ』

ナカヨシン者あそれなりにつれない 帰り道にゃ草の荷物に花も揺れちよる。いつか芽生えち一緒になつたり勸まぬまま遠くに嫁ぐそげな運命もあっち若え青年団の頃は 楽しい時代でんある。山の露に濡れた体の白い肌が紅潮するような 言葉がかかれば想いでももっと 印象に残るが。

降り続くナガセ雨に蓑を着ちバッチョ口笠がゆう似合う。馬つかいがウエジロかいちゆくあつう 女ごしがチョボチョボ手植えするとセセロシイワクドが鳴き騒ぐ。苗半作ちゆうが畦ん頭ん年寄りしも 荷がおれたゴタルか皺ん顔がユルーダ。長雨ん中ん仕事じゃきダリも出たごたる。湯をワカシチョカニャ。

娘が田植えんサナケーいきと一なった。あたりう見回すと隠るる所もねー。『どげーしゅうか』 思案しちょつたら年寄りが目ざとっ気がチータ。『イデンナケー イキナ』 頷くとイデに飛びくうじ裾うずりさげた。流れ水ん中じ『おご免』サット出したもんじゃき アワブクガ流れち行く足もとがホーラヌクーなった。

苗を洗うち荒神さまやら仏様に供ゆると カンカラ餅う世話になった家に配る。しとしと雨が降る表座じ横になるとダリが…つるつと寝とうもなった。クチナシン花ん匂いがなんとんいい。子供たちが二つ合わせち作った水車に 軒先ん雨が落てかかるとクルクル回る。えーと仕事が一段落したが天気になリャ麦干しもせにゃ。

『おんのー』『おるで まゝあがんなー ヒズカッタジャロー』 浴衣に着替えち来た隣ん娘 年頃になっちコンメー時かる兄妹のごつ育った 遠慮もねーかわり甘えもするけんど 若い気持ちがかん頃ゝ仄かなもんになっちよるごたる。お医者さんゴッコした子供んあん日 夢んごたる不思議な巡り合わせか。

『こっちきな一年寄りくそーなるで』『ちゃー悪いこつー言うちゅうたら』『あっちじ茶を飲みなー』 二人ん想いに親が気を効かすりゃ 若えもんないい按配ち二人きりになるる。湯上がりん女らしい肌の匂いが 梅雨空に一層香りゅう漂わせよる。

『トッタンも来りゃいいに』『あとかる来るち言よったで』



そん〈8〉 ふとん洗たく 肥やし出し

畑やら田の草取りやら暑いけんが 盆まじヤリツケチョカント後
がせわしい。外ん暑さかるチットデン楽させちゃりて— ぞげな心
くばりに『ふとん洗たく』がある。一年中着ち汚れたヌーまとめち
洗たくスルニャいい時期じゃき女ごしゃ かかりぎりいなる。男
が汗ミドロで働くに—ちょこっと悪い でん男しにさする訳にもゆ
くめ—き。

娘たちも母じょうかる習い覚え ヤンガチ一人仕事が出来ると嫁
ごにも行けるる。盆まじん仕事ちや馬屋ん肥出しもある。朝早うガ
ンマク^〆引きで—ちツボサキ積み上ぐる。手がスベスベした柔らし
ゅうなるき あん人に握っちもらいて—…ち乙女ん胸は高鳴る。
溝脇にハッカん葉が繁っちよる チギッチ揉み目の上に貼ると涼し
いき 寝不足も目がさゆる。

夕立来るカシレンド干し草う濡らさんごつせんと 雷が鳴ると子
たちんママゴトアソビも中止。ひろげたゴザに一杯カンナ シソ
トビシャクん花がご馳走ん仲間入り。小粒ん雨がポツポツ落てで—
た。激しうゴザを引きずりコマニャ……慌てち子供が引きずりく—
だ途端 大粒んあめがツボを叩くごつ降りて—た。

ひとしきり降った中間に雷も鳴る 子供はカヤん中じ顔見合わせ
ちジットシチョル。悪ガネでんま—子供…首うじ—と出えて雲行き
う見ちよつたが 西ん空が晴れたらじ—と出ち来た。『ビリビヤキ
が焼けたき食うか』『いるいる』ひとしきり降った雨ん後にゃ虹
が橋うかけちよつた。

又ぎらぎら日が照りで—た 干し草も濡らさんじ美しい色じ干あ
がるごたる。盆がもうそこまじ来たききな粉もすらにゃなるめ—。
墓掃除も 田の草も取り上げにしちょかんとなるめ。暑いけんど。

田植えがすんじひと安心したが これかる長ん夏中ん水ん番がヤエコチャネー。雨がガイト降りゃいいけんど 日照りが続くともう水ん引張りやいこが始まる。ガイト入っちゃんにヤガウエ入れち越し出よってんまゝ欲張る。水番じセキグチまじ上っちエート田のクロまじ 水う連れち着たらもうどこかじセキクウジョル。

定盤の水分がさるるぬう泥うあげち 自分かたん方に流しよる。そげな度胸んあるじゃ女ごしがやっぱ強い。水ヒモジイ時座りくうじイモジうまくりあげち 美しい水ん中じ観音様が見えよる。揺るる毛の黒さが度肝う抜がれちしもった。『そげーまじすんのなら今日はやるわな』『すまんな一タマツタラ流すきコラエナー』

時計を順番に回しち当番にチィチョツタラ 夜食を持ち来ちくれた若い娘が『一人じオジイコターネー』『ソゲンコターネーデ』一緒に居りて一言葉が織りこまれち なんとん愛らしい事じゃが。蚊もおりゃ蛇も出るかん知れんち思うと 『帰っち寝らにゃ朝起れんで』『こきー泊まるーか』 チョコット投げかけた言葉……

『11時まじジャキ一緒に帰るわな』『ソレマジオル』 甘えてんか好きになっち側じ話したりシテエ。娘ざかりの心の揺れ動きが夏ん夜の 絵のごたる水番の涼しい風に仄かに揺るる。田をアラカタ見ち回るとどうやら入ったごたる。『こん分なら明日まじショワナカロウ』『ウロイガホシイナー』 口添えしちくれた。

真剣骨折ち作る米もこれかるシケも来る。虫もつく寒さが来るかん知れんが百姓は 出来上がっち初めちユウ出来たか悪かったが出る。そりー小作米う納めち残りう売っち 銭になるなーどんくれえか苦を見たわりにゃ 儲けが少ねえ仕事。それでん何とか今年も半分な出来たんじゃろうち 自分にいい聞かする。色白ん娘ん横顔安心したんか疲れかネムッタ。

『ドンク カマスカ アブラメ イカリコもおったで』 子供たちが川干しシチ帰っち来た。『どう見せちみよ』 髭面んヂイサンがクワエタバコっしち 出ちきた。嬉しゅうじタマラン孫たちん格好が自分どろん子供ん頃い夢っ追うち。テマリコが終わるとボンジが咲きはじむる。真夏ん暑いんが目が回るごたる。

盆おどりん稽古が始まったもんじゃき 若えもんな夕飯もソコソキー倶楽部に飛っじ行く。娘たちがチョコット薄化粧しち もう嬉しゅうじコタエンのじゃろう。『ツキアゲしよったらヤケハタ出来ち』 料理もデーブン上手になったラシイ 話振りが自慢なごたる。『トッパイン冷やしタンナーいいな』 横かる口っサイデータ団長が 白い歯をムックリデータ。

『はじむるかな…お前どう口説け』『俺ドゥガヤ』 声がいいきいつも名指しさるる者が 口説きダスト踊りん輪がジキ出来る。暗えごたるな一ツキヤクが始まったんか 気を効かせた友達が『練習ヨコイヨ』『ショワーネーキ』 氣くばりしちクルルンガ嬉しい。竹といかる流るる水ん音が涼しゅう聞こゆる。チョロチョロち。

『キラス貫うたき今夜イルカナ』 メゴに茶碗をフセヨッタ嫁ごが イモジん裾っ引き上ぐると『ヒキノベ食いて一ち言よるが』 婿じょうがヨッポズ好きじゃろう。『そーな ホンナ炊くな』 ち相づちっ打つ。盆かる柱松ん行事ち続くのん百姓にしちみりゃ 楽しい心ん和む習わしかん知れん。盆トンボも飛び回っち。

一汗かいた踊りん練習に囁く若えもんの 夢が恋が星空に輝くごたる夜更け。米がユウ出来りゃ尚いいけんど 元氣じゃウチがイノチキ出来りゃ幸せそんもんじゃろう。盆の送り火ヤセウマダンゴが供えられち 人間の気持ちもなんか落ち着くごたる。

そん〈11〉 秋祭り

長え夏も9月スグリヤ朝晩な涼しうなった。今年も米ん出来がいいごたる。秋祭りん太鼓ん笛ん音がヒューラヒューラ 子供が口んハト一黒うしち帰ちくる。ガラメ クワイチゴ食うタンカ何でん手あたり次第に食う。それでん腹にあたらんな一元氣な証拠じゃろう。ちっとニッケでん掘ちゃろうか。

『センプリう取ったきやるで』 若えしが草切りかる持ちちくと 露に濡れた男ん匂いが頼もしい。『祭りにゃ神楽う舞うか』
『オジャンに習うちナエ』 上手に年寄りうオダテタ憎らしい言葉え マンダラデンネーゴタル。『教えテンイイド』『祭り餅ん餡にエンドーがあるで』 ばばさんが奥かる。『おおきに トーマメがあるち言よったが 言うチョコワ』 皆んな助けオウチ生きちよる。『屋根葺きにゃ加勢シヨヤ』『いつでんいいで』『シモトう切る時いオーコも切ちよくど』 いつ聞いてんいいもんじゃ。

夜なべ仕事んツクロイが薄暗えホヤん下じ 電気があるきイアンベージャが雷がカマに落てた時にゃ イットキ電気がツカンジ困った。若嫁ごと並うじツクロイ物うする娘 『コイサ行くんじゃねーんな』 気を利かせち耳元じ言う。『もチットシチ行くき』『裏口う開けチョコキ気をつけな一え』『うん』 義姉が助け船も経験があったんじゃろう。ヤウチガふういいなゝ見た目にもいい。

もうすぐ稲刈りムシロ干し それまじ粟やら黍やら取ちメグリボウジアヤス。富山ん入れ薬屋も来る頃あっちこちん 話う持ち来るき待ち遠しい。子供がフーセンぬ貰うのん親が 薬代を払うそん苦勞ん代わりじゃけんど。正月歳暮に桐下駄ベッチン足袋なんかが 夢も膨らませちくるる。しもん娘が歩クチ聞いたが年頃になちち よそん子の太るなゝ早えもんじゃ。それだけコッチも年う取りよるが祝いじゃき ハリクージャロウカノー。ガマグチが開く。

方

言

ば

は

な

し

七瀬ん渡しん五助さんが話すなーあかんし憎めん。古い話やら新しい話やらゴッチャマゼクリしち……ほんなちょこっと聞こうかなー。

★ 古い時代ん生活かる 乳ん出が悪いしゃ乳飲み子にゃ 米んすった粉じ作った乳じ育てたもんじゃ。母親ん乳に比ぶりゃウモーネーナ解ちよるき ハジメンうちゃ押しやるけんども
ヒモジーモンジャキ飲みでーた。それでんケックシャ太っち育ったもんじ ゆうしたもんじゃな。

★ だんご汁は夕飯ん定番 小作人にゃ米もでじなもんじゃき手当り次第に野菜をサゼクージ ビッチョこねち入るともうすぐ 食わるる。夏ん暑い時でん汗う拭きふき食う。これが又冷てえのもいいし 朝ん温めたんのんけっくしゃいい。米ん食い延ばしでんあり代用食じ 栄養もあっち消化もいいもんじゃつた。

★ 米が地主に納めちチットン米う売っち いのちきん錢いしたき 残りん米はガイトーはねえ。そら運動会ち言うと米う借ったり 葬式ども出た日にゃ大事。日ごろ仲んいいしに無理言うち借しちもらわにゃならん。借り歩く小作人…小作人でん上もありゃ下もあつた。『錢ゃねーでん貧乏人にゃなるな』ちいう言よつたもんじゃ。 錢ゃのーでん物がありゃ何とかなつた そげな気持ちが滲み出ちよる。

★ 待ち肥に願いこめち畑に撒く ちつとでんユウ出来ちもらいてー気もちが込められちよる。気候も湿りもいるけんども土が肥えちゃらん事にゃ ドゲーモナランき祈る思いじ肥やしう撒く。その後ち種うオロシチ芽が出た時ん喜び。撒いた肥やしちがゆうキイチクルリヤイイガ。

※ 馬ん顔はなし長え…それもそんはず あげな底ん深え 駄桶に首をつっくうじ 駄の物う食うきどうしてん 長うなるわな そっじゃろっ。

※ 蟻はなしあげー黒いんかえ…ゆう考えちみよ 長ん夏じゅう 暑いにヨコイモセンジ働く。そんうち一日焼けしちしもうち まっ黒う もうへモドラレンホズ黒うなっちしもうた。

※ 何のせきえ…風邪うひいち何かコンノン せきがでる。どうでんそん訳が解らんに。そりゃー佐賀ん関〈咳〉じゃろー。

※ お化け退治…こん頃お化けが出るち言うき ある晩待っちよたら出た。よし…ち般若心経を唱えたところドゥジャロー 繰り返しん経 フショウフーメツフークフージョウフーゾウフーゲンゼーコークチュウ ムシキムージュ 唱えているうちー お化けん奴が お経に引き回されちグルグルマイを。そんうちー目をまえーちツクナッチシモッタ。

五助さんの話につりこまれちしもうたもんじゃき 『ちよいと待っちくんなー』『どげーしたんか』『イブしぼらにゃ』『シヨウガネーノーほんな一服するか』 ※ イブ…小便したくなったの意味。

本当か嘘かは別にしち面白おかしゅう話す 五助さんの口もとん髭が博学な年輪さえ 感じさせちくるる。心に残る話ん中にゃ 教えられるる事も 人間の人生勉強にもなるき人に好かれ人に 大事にもさるる五助。こげな人と生活する時いつでん 豊かな心優しい気持ちが育つんかん知れん。

若いしがニヤット笑うとキセルじ叩く真似うする五助。そりー頭う撫でち下向く表情が又なんとん言えん 微笑ましうもある。



◇ 人間な誰でん才能があるち言うが 三つん才能にちーちシヤベリでーた。1…そりー向く才能 2…そりゅー努力が続けらるる才能 3…人間社会じいい師に巡り合わする才能。

◇ 人間の世界は結果がすべてじある。そじゃき『頑張ったけんど』とか『はりくーじ努力したにー』とか言うな一言い訳じこすある。そげなこたー言わんでん 世間な皆はちゃんと知っちよる。

◇ 年う取ってん運動は忘れんごつせにゃ悪い。少のうでん30分はするがいいち言う。そりゃー分けてんいいそうな。毎日続けるこたー当たり前じ 歩くこたー特にいい事じゃ。こまめにすりゃ気分の転換にもなり 若返りにもなるき心も体もサカシイごつ 気をつけなりーえ。

◇ 微笑みに勝る心ん化粧はねえ。 ……………

ところじこん頃ん新聞に出ちよつた 言葉んあれこれんもんぬ 幾つかサラエチ見た。言葉《方言》ん美しさ 優しさ 温さも要求さるるごたる。

★ ごめんね……あいさつんつもりじ言うんじゃ 心は伝わらん。本当に詫びるごたる気持ちかるなら 真実味をこめち。

★ 英語優先は侘しい……病院のチラシにあったが カタカナが多すぎち 美しい日本語が減ってちしまう。カタカナ減らしちよくれ。

★ 言葉ん使い方変な……スゴイキレイ…すごくきれい。これじゃ美しい気持ちが チョクラサレチョルごたる。

五助さんが府内から帰り途中じ 魚屋の前を通りよったら内か
る 売り買いん話が面白い。

『こいさ近所んしのヨリアイがあるき 魚買いに来た。ブエンな
んかも見つくろうちくれな。こん魚どこかる仕入れたんな』

『関ん浜かる来たんじゃき イキがいいで』

『ソウナ ちっとまけちょきな一え 隣んしもヨロシモウシヨ
ッタデ』

隣んしたお魚屋が懇意にしよる…ゆう買う得意さん。

『フントエー サカシイフウナエ』

『さかしいさかしい 元気もいいが口もさかしい』

『じゃろうな一 いつもあげ一あるけんど ねはいきなえ』

『こり一しな一鯛じゃ べんきょうしちよくき』

『鯛え そりゃちっとよすぐるな まあいいか ほけ一なかった
きち 言うこち一しゅうか』

『そんなかわり ちっとほかぬ一 よき一入れちよくき オカンに
内緒で だまっちょんな一え』

『お一きに お一きに 遊び一上っちくりゃい一 ナバも出だし
たし ハチクもゆう出ちよるで』

『よろしゅう申しちよくれ 達者えしちな一え 隣んおぼんにもな
一元気しちよるごつ』

お得意さんた一いいもん たった一匹んイワシでん入れただけじ
もう 天狗ん鼻う取ったごつ喜ぶ。

五助さんもそんな話う聞いち『ツレノーチ帰るかな一』ち 声うか
けたら 『い あんばいじゃ こん荷を乗せちくんな一』『いいで
こっち出しな一』 ここでん人ん温もりん会話があり 交流が生ま
れよった。

★ セクハラん言葉も難しい…つき合う交際相手によっちゃ 解釈に開きがあるごたる。

★ 不愉快な返事…ウン フン ちゆう聞くけど 自分と相手とん関わりじ 返事の応え方がチッター考えた方がいいんじゃあるめーか。ロマンが欲しいもんじゃ。言葉一つんごたるが相手に嫌な感じう与ゆるな一 考えもん。言葉はもちっと大事に使うちもらいて一もんじゃ。

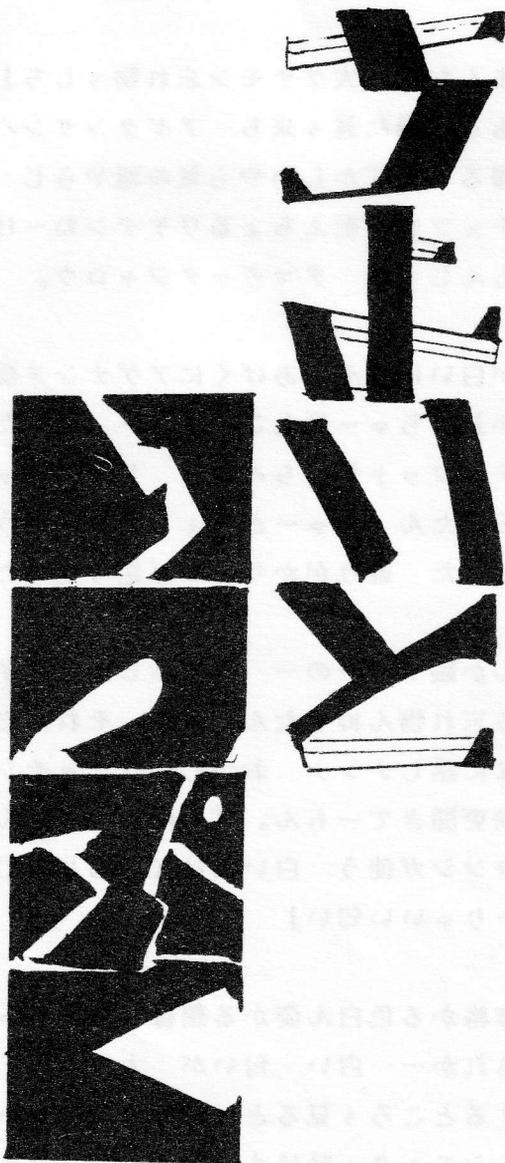
正しい言葉はやっぱ大事に
気持ち悪い…キモイ 難しい…ムズイ なんかは事はそもぬ一粗末にしよる そげな気もするけど どうじゃろーか。
時勢の流れち言うちしまゃそれまじじゃが 折角使い慣れた言葉はやっぱ 大切にせんと自分の品格にも人間性 価値観もスツタリいなちしまうごたる。

五助さんがん話が弾むもんじゃき 時間がどんどんたっちしもうち 家んしが呼びに來た。夕飯ん『だんご汁』が出来たんと。わしもヨバリイコウカ ち言うたら『ほんな來りゃいいわ』ち 声うかけちくれた。五助さんが『言われたき一ちすぐ行く奴があるか ちった遠慮しよの』一釘うさされちショボクレタもんじゃき 『いいき行っちヨバリー そん代わり明日加勢しよや』

◇ 柿…柿が豊作は暴風雨も多いち言う 柿ん字は『あかつき』と『かがやき』ん『か』と『き』ん意味かるついたらしい。

ちょうど話んきりがち一た頃い 五助さんに荷運びん連絡が來た。『ちょいと用事が出来たき こん続きゃ又するど』 腰うあげた五助さんぬせかするごつ 皆もそれぞれ家ん用事うするごつ引き上げた。話にあるごつ言葉はでーじー使わにゃ勿体ねえごたる 気がしちならんのん心が優しいきじゃろう。





『すまんえ 大ケナモン忘れ物らしち』『いんにゃタマガッタド』 もらい湯に遅う来ち アゲクンサンパチニャ 使うた物うー忘れち帰る 恥ずかしいやら気の毒やらじ 朝早う来たらもう見つけラレチョツタ。肥えちよるワケデンねーけんど ホカに比ぶりゃ大きいもんじゃき タマガッタジャロウ。

『色が白いに そんあげくにアゲナンヌ使ゃ 特別色白になるんじねーか』『ちゃー見たごたるなー 貰うたきー使うんじゃけんどー』『チョコット匂うちみたら ケックシャいい匂いがするのー』『匂うちみたん じゃーどげえしゅうかもう』 二人んヤリトリッ 聞いちよつた 通りがかりんシガ足う止めた。

『なんか賑やけーのー 何の話しか』『インニャゆーべ 湯にへーり来ち忘れ物んぬしたんじゃが それがお前』『もういい そげー皆んなに話しナンナ おかしゅうナッチシマウキ』 そげー言わるりゃ尚更聞きてーもん。『そげーや なんじゃつたんか』『それがのーコンシガ使う 白い大けなもんじゃじゃつたが 匂うちみたら ほーりゃいい匂い』

娘ん体格かる色白ん姿かる想像しちみりゃー ははーんヒョイトスリャあれか……白い 匂いが 大けな物 恥ずかしがる格好 顔う赤うするところう見ると……そげなこつー自分じ勝手にきめくーじ行っちシモウタ。話はすぐ広まる 『ソウト』『アッコンシが匂いがいいきナオシクージしもうたんと』 はてはて人ん口にゃ戸は建てられん。

母じょうがソリュウ知ったなー昼過ぎジャツタ。『あんた湯に行っち何う忘れたんな』『えー何 あ あれな 石けんじゃこと』『石けんえ 大きいち』『こんまえ外国帰りんしに貰うた』 それがどうかしたんな』

『イッペンサセナー』 若い娘が男かる言われちみりゃー『悪いとん言えんき』『あんたシタコトあるんな』ジワット聞いちょかにゃ 恥じうかかせてん悪い。『アルデ 上手じゃねーき気にいらんかん知れんが』『チャーいつ頃覚えたんな』『16ん頃かなー』チット頼りねー話しじゃが 娘も『サセテンイイ』ち思うた。

アンシなら手もスベスベシチル じっと握ッテン傷がちーたりはシメーキ。がっちりした体格じ真剣にサルルと 受け身にしちみりゃ後スダリするかんしれん。それでん根は優しいき 柔らかう触ちうまい具合にスルかん知れん。『16頃に覚えたんなら上手になっちょるじゃろう』『それが年中はセンキ上手にゃならん そりー相手がナエ』『ソリャーマソウジャガ 相手がおらんとなえ』『お前はいつ頃憶えたんな』『ウットー子供ん頃じゃき7つ頃かなー』『女ごはそげー早う憶ゆるんかえ 誰に習うたん』『はじめはオカチャンじゃけんど 友達同志じオソエタリ習うたり』

やっぱ女ごと男じゃ遊びも違うモンジャチ それでんコゲナ上品な遊びは二人ダケジスルキ やっぱいいもんじゃろう。母じょうに習った後は友達同志じ クスクス笑っち話エタリシチ見ちゃ憶えたり。『いつがいいな ゆっくりした時がいいき』『コイサでんいいで トッタンもおらんき来りゃいい』『行ってんいいな 見つかる怒らるりゃせんな』『どげーあるもんか ヘルモンデンネエニ』ヨカッタチ胸う撫でおりーた コイサあんし^くサルル。

そん晩夕飯もソコソコい娘ん家にズリアガルと 二人リジ始めたが手が荒れちよるき滑りが悪い。気がせくごつ娘がせかするき中々調子ゅういかん。母じょうが気をきかせち茶を持ち来た。『まあ茶をぬーじ落ちていちやんなーアヤトリお 憶ゆるまじが苦じゃが あたーワキァネーキ』 若い二人お顔見合わせち大笑いした。

草きり山道じ何かモジモジシデータぬ 目ざとぅ見ち牛ぅセカセ
た。もうジキ草きり場に着くき一時辛抱すりゃいいに 心ん中じ祈
るごつ坂道ぅ上った。『ここじするな』『こげん所じえ』『いいじ
ゃねーな 誰ん見ちよりゃセンワナ』 牛ぅ側ん草がシコッチョル
トコロい追い放すと アタリユ一見回え一た。

真剣こらえたんじゃろう もう待テレンゴツ着物ん裾ぅからげあ
げた。草が繁っちよるきそん中に入っちよりゃ チョッケマッケニ
ゃ人間の姿は解りゃせん。シトージタマナンヌ一堪ゆるんもヒジ一
モン。朝露がビッシヨリ足モツゥ濡らしち 若えしでん肌寒いごた
る。

いつじゃつたか風呂場ん脇じ 一人が帯ぅ解きよつたらチット離
れた所じ 一人ゃへコ外しよつた。暗隅じ解らんち誰も見ちよらん
ち 思うちよるゴタルガ見えたしわ息ぅ止めちしまうごたる。恋の
濡れ場ち言うんか羨ましいとん思うたが。今はソゲン事ドコロジャ
ネ一デ 『ココジスルナ』 もう待ちキレンノジャロー。

草を押し分けち入っち行くと朝露が 無情にも下半身をビッショ
リにシチシモッタ。まくった裾にも手先にも…もう構うたこた一ね
え こんまま誰と出会うてンドケーシュウカ。チャント見張りゅうし
ちくれちよる 安心感もアッチか堪え通した瞬間の……あたりん静
でん解らんごつ草を温くぅ濡らしち 思い切り出した後ん気持ちん
いいこと。スートスルト露ん冷て一んがよけい応ゆる。

まくりあげながら出ち来た笑顔が 満足げなほんのり紅潮しち待
っちくれた 優しい心くばりに心じ礼を言うと『え一と楽になった
なケックシャこげん所もいいじゃろうがえ』 『スカンモウ』 そ
れは甘えの一言じゃち解ちよるが 『ナシエ……』





あそび

こ

と

も

んせ

界



◇◇◇ (1) …雪足 羽根つき テンボナシ ◇◇◇

『ホラ乗っみよ これならヨカロード』 ちいさんがん手づくり
ん雪足 ミンネータヘラク言イテゴタル。『あい』 嬉しゅうじ
こたえん気持ちゅう押さえち ツボサキ出るとヒョウト飛び乗る。
こんくれーなこたー 当たり前でん作り方が悪いと乗りにきー。ケ
ックシャユウ出来チョル…思わん笑顔がクズレタ。ちいさんもマン
ダラデンネーンジャローゴタル。

女ん子はシラシンケン羽根ツキューシヨル。『シモッタ』 つう
じ行っち落てた羽根う拾いあぐると シンケン打ち返えたもんじゃ
き ムクロが取れちしもった。『ばばさん羽根がクズレタ』『ナニ
エ ドウコンゲヤッチミナ』 縁先じツクロイ物うシヨツタンガ
眼鏡う外すとムゲネーンジャロウ。黠ん手じ子供かる貰うた。

背中ん子が手をサイデーチ欲しがる 『ちよいと待てやアヤシチ
ャルキ』 竹竿じ叩きあやすとバサッチ草ん中え落てた。ソコラジ
ュウをかき分けち藪に入ると 背中ん子は目をツビーチ手じ払いの
くる。『あったど ほら食え』 黙っち受け取る背中ん子 ナント
ンいい匂いがしちテンボナシが 春を待つごたる。

ブクん中ん子がクタビレタンカ 腹がオケタンカ 軒うケーチ寝ち
しもった。アンヤンガ子守がウマインカ テンヘボナシが旨かった
んか。風がヤンジ陽ダマリニャ子守も寝むと一なるごたる。晩方ま
じがトキノメーニクル 親がハリコマルルノン子供が 加勢したり
すりゃこす。それが家族ち言うもんじゃろ。

◇◇◇ (2) 麦ふみ 薪取り かくれ鬼 ◇◇◇

親んあつーしかたねー踏んじ行くと 足もとん冷てーんがポカポ
カしでーた。頭う踏まれてん根を張っち太る麦が 夏にゃ実いりに

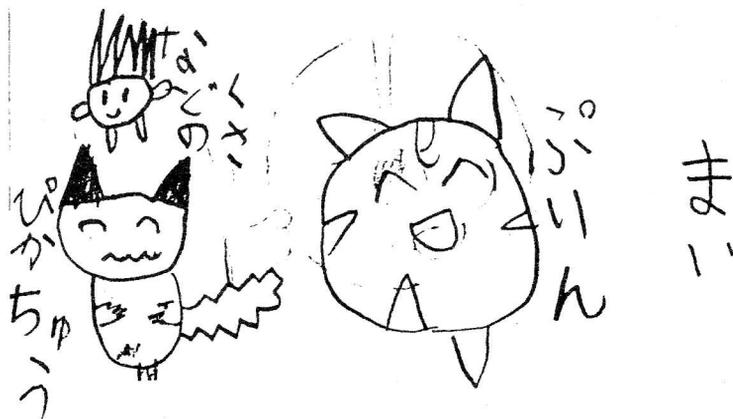
なっち暑いサナカン麦刈り。それが百姓にゃデーシナ金になる。はりくうだ分はユウ知っちよる。『もうダツタジャロー先いねや』親が使いがウメーキ飽かんうちーやめさせた。

薪もん取りい行くと

『お前がんチット少ねえき こりゅうやると』 上級生が気を利かせちクビルに入れちやる。皆が荷が出来ると前と後かる チャント列ん番ぬしち帰るき親も心配せんじすむ。『あーひじいヨコイテェ』『シンボウデケンカほんなヨコウドそきー ナンカカラルルか』 上級生が目配りしち ジャキ皆もゆうこつー聞きもする。

『こんだお前が鬼ど』『や 俺かトマチ言うたに』『へヨ 聞こえんジャツタド』『チャーほんな鬼うするわい』『早う隠れんと』子供ん遊びが晩方まじ続くと 親がやかましい子はイツンナカメーカ おらんごつなっちよる。正直者は鬼んままそん日が終わる。鬼になっちトマチ言われち イレクラレチ ソレガ子供ん世界か。

夕暮れん家かるダンゴ汁う炊く匂いがしよる。イラブカサレタ子も他んモンヌ恨ミモセン。じゃき助けられたり助けたりしち 子供たちも育っち行くんじゃろう。人ん気持ちも大事に心配するのん優しい気持ちん現われか。自分がコナサレテン誰かがカボーチクルル。そりゅう習い覚えち次に送っち行くんじゃろう。他所ん親かる怒られてん当たり前ち 自分の悪い分ぬ判っち育ったごたる。



◇◇◇ 〈3〉 …ひばり サトガラ ひなまつり ◇◇◇

麦畑かる聞コユルひばりん鳴き声 空じイットキ鳴いちよるがサツと 巣かるはなれた所い舞おると自分ガン巢マジ 小走りいに走る。『もうギシヤキうせにゃなるめー』 親がそげな話しゅうする頃にゃ アッチコッチん畦かる煙りが上がる。そんあとじトキノメーにツバナが出ちくる。

川ばて一行くとサトガラが太ちよる。ムシリトルと皮おクルツト剥いち食う。チッタースイーヌ顔うシガメチ それでん早う食うた自慢ぬ学校じする。田舎ん子はカバンにフトーナコツ持ち来る。メッテー食わん子はホシガル 『お前も食わんか』 サイデータサトガラは季節う見する 子供ん食い物んかん知れん。

『えーユウ似ちよるえ』 ヒシ餅ん話になっちドウデンそん格好が 女ごしんアッコに似ちよるごたる。ジャーキ大事にせにゃドゲーユウテン 子供う生むデージン場所じゃき。丸い餅ん一番旨エ所う切り取ったき そんくれー大事にせにゃナランことじゃろう。餅の残りは子がイミッタそげな意味かん知れん。

霜もオレンゴツナッチ川ん水もヌルーナツタ。ガキドモァ水遊びが好きじゃきすぐツージイクンジャネエ。汗ビッショリじ帰ちきた親たちが つるべ井戸ん水う腹ひとつ飲みもん ウマカローゴタル。ヤンガチ忙しゅうなるき子供ん仕事もガイトナル。アカギレゴンゲンもユウナルジャロウ。

◇◇◇ 〈4〉 ワラビ ぜんまい 遍路道 ◇◇◇

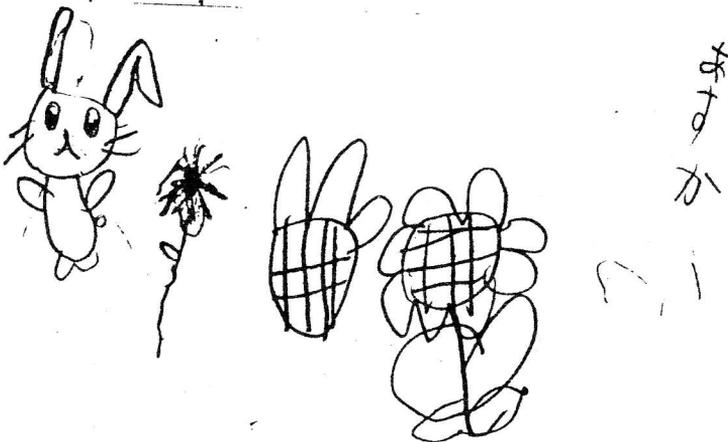
春んお見知り遠足にゃ遠方かる来る 子供たちん地区に行く習わしじ そこん近所ん野っ原に弁当広ゲチ遊ぶ。そんナカメー先生は子供ん家じ親子が一緒に 話があっちコッチになりながら 担任の

先生と顔も気持ちも解りあう。芽がのんじカンカラ ワラビやら
ぜんまいが遠足帰りん土産にもなっち。

菜の花が咲きデータラ遍路歩きが始まった。白装束ん年寄りしが
鈴っナラシチ家や札所に お経をアゲチ回中ニャ若えしも 時に
ゃ子供もツレナウ。ゲンキじサカシイ事 やうちが病氣せんごつ。
お接待ん茶をヨバルル木陰じ 若いしが汗っ拭くヌー風が涼しっ
気を利かせちか通り抜けち行く。

麦が背伸ビシチ色づくくと匂イマジ感ずる。ワクドが鳴きでーたん
春田起こしがはじまったキーカ。百姓が忙しゅうなるとボチボチ暑
うなちくる。梅が目にツクゴツフトツタ ビヤもなりがいいごた
る。ビヤがゆうなると麦もユウ出来るち言う そげな昔かるん言い
伝えデンイイ 豊作がなによりじゃもんな。

子供が飛ッジ遊ぶぬ見ちよると年寄りは 目を細めち嬉しいもん
じゃ。よそん子でんオコリタクジルガそれも ムゲナカリャコス。
ヨソん子でん自分方ん子でも 皆なじ守っチャラニャ子は宝いつん
世でん。桜ん花が満開になっち花見っシュウエ 若えしが誘いに来
たゴタル。声がかかるうちが花じゃろう。



木々新芽がフイチ茶も摘み頃になった。アネジョウが姉さんかぶりがユウ似合う。それもそんはず今日わ婿じょうになるしが 加勢に来るち言いよつた。口紅つけちオシロイもぬったんじゃろう。美しう見ゆるごたるな—マンダラデンネエ。オレガン姉じょうち思うと チットバッカシ嬉しい。

茶摘みが朝早うかるしよるきヤンガチ来るんじゃろう。姉じょうがドゲナ格好じ迎ゆるか 意地悪い奴じゃこつ。ドゥデン来たごたる顔う赤うしたトコルー見ると。男前じゃの—ち見惚れたら母じょうかる 怒られた。『ほら 見ちよれんじ籠んそち—出よるじゃね—な』

なわしろふみ…忙しうなつたき水がたまりゃカキマエ—チ 苗代ん草う押さえく—じよる。『水が取れたな』『え—と今朝オケノに引っ張ち来たら どうにか』『手まわしがいいな—』『そげんこた—ね—けんど麦もウレタキ』 田植えやら麦刈りやらイチドキ来るもんじゃき。

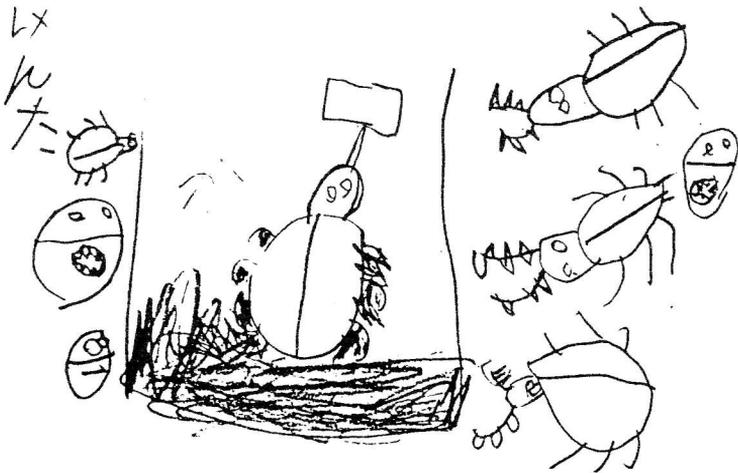
『大分三井を植ゆるな』『あいたウメ—ケンド アユルナエ』 毎年種初に苦労しち植ゆるが オオカタカタグリャ イイイッカジャ』 トニカクゆう出来ちくるりゃもう これが一番いいんじゃがそれが 中々都合ユウイカンモンジャ。『こびる持ちきたで』『もう帰いつたんか 水止めちくれんか』『あい』 子供なりに心えたもんミナクちい石う置くと水が止まった。ゆうしたもんじゃ。

『節句餅じゃね—か どこかるモロータンカ』『オバンカタち言うたで』『おぼんかたや オウツリガ高づくのお』 それでん家だけ貰わんじゃつたじゃハラガタツ。『ヤンナいらんのか』『もう食うたきトツタン食いな—』 子供心にも親んヒジーンガ解るじゃろう。親もそん一言がドンクレ—嬉しいか。

ワクドが鳴くと雨が降るソソハズじゃナガセじゃもん。蓑笠着けちドゲ濡れてん植えちしまわにゃ 止められん百姓にしちみりゃ地獄でんある。地獄入りゃしち天気がよけりゃ麦刈り 雨が降りゃ田植えちヨコウマモネー。子供ん仕事もチャントアル子守 苗運びホラ豆ん芽がケトバサレタ。畦に植えた豆がヨダンに出来た分。

テマリコに雨が降りかかり風が吹くと 揺れちユッサユッサするが デンデン虫がええらしい足跡ゃ残しちハイヨル。『子供わ早っ帰っち湯をわかせ』 あんまり濡れち風邪でん引くと大事。年寄りも一緒に帰ると仕事がチャントアル。竹んカケドイかる水が入るぬ見ち フキタチュサシクベタ。時んめーに沸くき年寄りと先に入ると 水じフヤケタ手足がドンコンネー太った。

『コガシュウ食うか』『いるで』 無心な子供は仕事そこのきコガシハネタ。クチんはたかる鼻んすにも入ったんか ハックシヨン…クロ黒砂糖がちっとジャケンド甘さがいい。『やんど下手じゃのーどこんこん汚しち』 ばあさんが笑いながらそれでん嬉しい 孫たちん元気な格好がタマランゴタル。



◇◇◇ 〈7〉 七夕 タニシ 土用干し ◇◇◇

ドイモン葉に朝露がタマツチ風に揺るるタンビ 銀色ん澄み切った水が転げまわる。そん水じスツタ墨じ書くと上手に書くる。願ひも叶うちケンカゴシなっち取りに行く。前ん日に切っちきた笹竹に書いた あれやらコゲナ事コヨリ紐じツクル。ゴシキン短冊にゃ子供ん夢もある。天の川ん二人も会うといいが。

『タニシンコネリ食べんな』『ありゃーもう捕まえたんな』『がいとねーけんどギシュクジャキ』 隣近所ターいいもん チットゥン物デンワケオーチ。『お前どーもヨバレナーサカシュウナルキ』 言い伝ゅ信じちイノチキする 百姓ん本音でんコンメー願ひ。でん聞いちクレタンカ今年ん夏ん暑いにも 元気ゆう働れるるき。

稲ん育ちがイイキ土用に入ると天気んいい日に 土用干しする。稲もシャントナリ虫も逃げちしまふ 昔かるん知恵が通用しち今も時期になりゃ。『もう穂がノゾキャセンかえ』『ちったー早生がマジッチョツタンカンシレン』 穂が出たち言うコター出来た証拠でんある。あとチットージ米が食わるる 丹精こめた。

◇◇◇ 〈8〉 ヤセウマ ままごと 川まつり ◇◇◇

『ヒキヌビュー仏さまにあげなー』『アイ』 テショーに山盛り入れたヤセウマ 夏ん代表ん食い物でんあり盆の欠かせん供え物。娘が手をでーちデーブン上手になった。きな粉ん香りが家じゅうに……『昼飯ん代わりでいいじゃろー』『俺 飯もチットイル』『ヤンナ好かんじゃつたのー』 子供でん好き嫌いもある。

隣りんミヨチャンにも…『ミヨチャンあがりなー』『…………』ママゴト遊びん夢中になっちよるき聞こえんのか。『ミヨチャン』『ナン』『上がったヒキヌベ食べなー』『あい』 返事がいいのも仲良しじゃき。

ミヨチャンも上がりチョコット座る。クルクルした目がエーラシー。娘同志が同い年じゃき寝てん起きてん 遊んだり喧嘩したりママゴト遊びやお気にいり。赤いカンナをシソに巻いたご馳走は得意中の得意。年寄りがお客さんにユウさせらるる。

『川祭りお願いします』 子供たちが銭を集めち川祭りする。御神酒をかうち供えた後みんなかて一配る。コマジャクレタ動作がオカシヤラむげねーやら 怒るにん怒られん。今年も水ん川ん事故がねーごつ 祈ちくるる子供たちんエエラシイコト。コンメー子供も見ヨウ見まねじチャント覚えち。

盆が来る 柱松 盆踊り
墓参り 夏休み トンボ 水あべ 魚捕り 子供ん世界も大人と同時進行ごたる 明け暮れにも子供らしい世界が 広ガッチョル。宿題 家ん加勢 大掃除…時々床ん下かる銭拾いだす…儲かったち喜ぶ。昼寝 ハスイモ キュウリモミ 雷 タ立 ヒグラシ。



◇◇◇ 〈9〉 朝露 十五夜 月見草 ◇◇◇

アンヤンやらネエヤンどぅが朝草切りかる 上荷まじ乗せち山かる
帰っち来た。露が草かるシタタリ落つるが 草きりんしの服かる
も流れおてよる。牛に食わするにゃ喜ぶじゃろうが メーニチ仕事
とんなりゃヤエコチャーネエ。遅咲きん山ゆりがそん荷に指しちゃ
るなんか 人ん優しさが手に取るごたる。

『こいさ十五夜じゃきお月さめ一何かあげにゃ』 年寄りはそのげ
な事にゃ気がちーち 見つくろうた物うお盆に乗すると ローソク
も立てた。月がゆう照るもんじゃきツボンハナまじ 誰が来てん解
るごたる。いいくうだホシ草がシメリモドツタンカ じわーち音う
たてちクズレカカッタ。なんとん言えん匂いが夏ん名残りう惜しむ
。

川端ん草むらにマア月見草が咲いちよる。月明かりに美しい色が
なんとんイジラシイ。暑かった昼が嘘んゴタル夜風に揺るる花も
あとイットキジ枯れちしまうんか。今年も残り少のうなつた農村じ
心う慰めちもクレタにー。感謝せにゃ罰がアタルンジャ 自分がん
事んじょう考えチョツチ 自然の事う考えんとコマッタコチーなる
んじゃ あるめーか。そげなこちーならにゃいいが。

◇◇◇ 〈10〉 亥の子 モクセイ 運動会 ◇◇◇

『こん夜の亥の子祝ワワンものは 角生えた子生め……』ハヤシ
マクッチ 亥の子ツチュー叩く。ちった一晩な寒うなつたけんど
子供にゃ楽しい晩。餅う貰う喜びも昔カル貧乏人もブゲンシャも
皆いっしょジャキーち決めたらしい。虫よけトン言うけんど子供ん
気持ちん中じ 一緒に楽しむ虫よけ行事が 貧しい豊かなわけへだ
てんねー事コス一番いい事じゃろう。『塩餡や』『いいじゃねーか
心がこめラレチョリャ 威張る砂糖餅よりドンクレーうめーか』

何とん言えん香りがするな一モクセイが 満開になったんじゃろう 今年も忘れんじ咲いちよる。姉やんが嫁ごに行った年にヤッパコゲー 香っちょつち姉やんがジートイツマデン見ちょつた。よつぽずなんか思いででんあんのか。それもソンハズ好きなしがおっちグツガキレンキ仕方ね一行くこち一なった。それぞれ事情もあつたんじゃろうが。今時た一で一ぶん違う時代でんあつたき。

『やんどーヒョベジャロウ』『いんげドベかる二番目で』『そうかアンマリ変わらんごたるのう』 毎日練習したけんど早うはならんな一 仕方ね一マァシンケン走りゃいいち思う。『運動会にゃ見に行くど』『きな一俺はへべじゃき』『ワダツト遅う走るんじゃろう』『そうで…………』『や 本当や えれ一のー』

ちっと寒くなっち稲がクンズキデータ。コトシャ出来がいいき運動会もハズムじゃろう。サカイジュウにシコタマ詰めくうだ弁当イナリズシが大けん顔うするじゃろう。ソウコウスルウチ取り入れが始まる。シノーになりゃ忙しいが子供もカセイシルキ 宛にしちよると中々学校かる帰っちくりゃせん。



◇◇◇ 〈11〉 湯わかし ヤキ米 秋まつり ◇◇◇

マメガラおサシクベチ湯を沸かすのん 子供か年寄りん役目じゃき 晩ガテーなると言われんでん遊びカル トマどち抜けち帰る。年寄りが気を利かせちタキツケたクド 『ゆうあかんじ遊ぶのー』『そりゃそうじゃー子供じゃき ぢいさんも遊びよったじゃろう』『俺どう仕事んじょうじ遊ばんじゃつたど』『又嘘うゆう』孫とん話が弾むと目をシカムルゴタル煙りが 吹きでーた。

溝刈りうしちヤキ米う作るのん百姓にゃ 楽しみんーツよしー出チョルシハ 送っち来るぬー待つちよるき。青がりシチこぎ落とし鍋じイッチ クルマじつく。サベチえーと食うごつなるが時々柵がマダッチョル。塩うチョロット入れち歯のいいしゃ 香りと味とじ秋ん豊作う心ゆくまじ味わう。

裸電球ん灯りが遅うまじトボレチ神楽が 夜更けまじ舞いよる。在所ん親たちも祭り客じ来ると サソーチ嫁ごも久しぶりん親子ん顔合わせ。『ちったー慣れたな』 親ん気づかい言葉が妙にコタユル。孫も大きゅうなっち小遣いを貰うち ドンクレー嬉しいんか。手を引っ張る柔らけーに 親も涙ぐーじしまう。

◇◇◇ 〈12〉 お使い 餅つき 年の暮 ◇◇◇

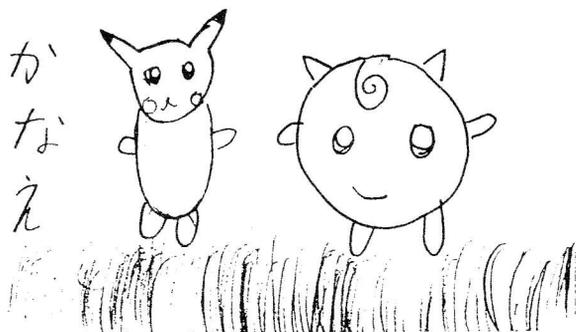
『組合まじ砂糖買いに行っちキナー』 子供に使いをさせち餅つきんシコースル。竹ん皮に包ウダ黒砂糖ん匂いがイイキ 子供が帰り一包みんハシッコかる指うツッコム。指先チット黒砂糖がチータごたる。チョロットねぶると甘い。いっぺんにシチョコキャイイニ又繰り返しち 帰りちーた頃にゃヘッチョルゴタル。

セッキモチにゃ
鏡餅もアラレ餅もトル。朝早ウカル杵ん音がセセロシイが これも年ん暮れん風物詩か 今年もドオヤラコレジ納め仕事ちーなる。

小作米う納めち残った米んうちかる いい米う売ったあたーヒョ
ウロウに取っち。ガイトーワネエが麦やら小麦粉やら 食いよりゃ
イノチキも出来るじゃろう。子供やら年寄りにヒモジイ目に合わせ
んごつ。親父もヤエコチャネーガやうちもチャント解っちよる。き
あんまりクジも言わんじ餅つきも賑やけえ。

『モロムキュ取っちきたきアグルデ』 イツデンどこでん誰でん
思いおうち助けおうち。『いつもすまんない 山芋う食うな』『食
うでくるんの一』『持っち行こうち思いよった』『そりゃーまた正
月んいい酒ん肴じゃ』『いい年が取るるな』『まあ どげーする
かなえ みんなサカシイきそれじコラエニャ』

子供が歳暮に貰うた下駄う何べんも 出えちゃカカエマワス。嬉
しそうな顔に親も年寄りも自分の事んごつ。寒うなるき風邪う引か
んごつせにゃ 病気すりゃ銭もいる痛え目にもあう。第一やうちが
暗うなる。サカシカリヤ食うもんない悪うでん ダンゴ汁んじょう
でん……そうこうするうち一年の夜を迎ゆる。イアンバイニ雪がま
あ降らんじ 正月ん道が泥ばねせんじいい。



◇◇◇ 〈13〉 子供ん世界 あれこれ ◇◇◇

本当に降るなゝ2月頃じゃが 雪が降ると田畑ん害虫が死ぬるき
こん年 作もんがゆう出来るチモ言う。雪足やら雪だるまやらソコ
ラジュウメン まっ白うなっち気をつケント道グロン 溝に落てク
ウジ足っタゴカス。フツがすぐ葉を広くると餅う食いたがる。祭り
でん3月まじゃ『つき餅』が4月にゃ『ふくれ餅』ニナル。

トーマメがなるとチギッチ食う グミもウメも手あたりシデーニ
ゆうまあ 腹にアタランモンジャ。トイム掘っち食うかち思うと
クワイチゴ ガラメを食うたんか口んハトーマっ黒うしち。ギシギ
シ塩つけち 夏みかんに炭酸ぬつけち。コガシッハネタラ むせち
吹きで一ちしもった。

こずかれたもんじゃき泣く 大げなしが聞いちコズキモドス。そ
んくれー助けちゃつたりもする。コナスやっにゃゲンコツヤッチ
泣く子にゃ大声じムドガル。ジャキ親も安心しち子供同志ん喧嘩に
や 口っサイダサン。チャント大けん子が仲直りうさせちよる。子
供ん世界にゃソゲナ無言の系統が いつんナカメーカ育っち受け継
がれちよつた。女ん子をコナシタリスリャそれこす大事じゃつた。

子守しち加勢する 病気ん子にゃ学校んこつー教ゆる。泣かせち
喜ぶかち思うとシッペカエシが そばまじ来ちよるきオジーモンジ
ャ。『やんな拾いださんのか ほら一つやる』 ヒトギひらいじド
ンナやんじゃき 広いモウサン。一つ貰うたぬ一家にモッチ帰ると
『もろうたに』 チャント親に言う。日ごろコナスノデンそげな優
しい面も見する 子供ん世界にゃ親ん解らん面白い事が多い。それ
も考えち見りゃ自分どうも通った道じゃつた。

かんかん照り帰っちくる子供見ち『チットヨコーチ帰れ』『いい
き』遠慮しち寄らん。心配になっち『ムッカラボウ貸しちゃれ』

『チンチン電車の物語り』

トコロジ大分と別府ん間を結ぶ 電車があったぬー知っちよるしも少のうなつた。明治33年5月10日カル全国でん 京都に次いじ2番目に走つち言う。はじめは別府港町起点…大分堀川車庫まじ。35年になつち竹町入口まじ延長。大正6年7月7日になると大分駅前ん外堀交差点まじ続いた。

8年に駅前まじ延長別府浜脇かる 棧橋マジモ ツナガッチ昭和4年に入つち別府棧橋…境川まじ。昭和5年12月13日になつち 亀川新川 さらに17年に亀川駅前まじ続き最後まで この区間が営業路線じゃつた。この間昭和31年に北浜…別府駅前間も敷設されち便利な乗り物じゃつた。

昭和33年2月25日になつち大分駅前…外堀交差点の路線変更で直線になった。それも車社会の押し寄せた波に圧倒されち ついに昭和47年4月4日オモッチ 終電車運転したあと廃線となつちしもつた。冬ん夜明け前かるホイッスル鳴らし 通過する電車の車輪のキシム音。哀愁がさそわるるごたる。

敷石がネエ路線場所やら夏ん水マキ電車 祭りん花電車ポールを車掌がロープ引っぱつち 前後にかけかゆる動作。チンチン軽やかな揺れも多かつたが懐かしい。大衆交通機関でんあつたが今回想すんに 渋滞のねー時代に走るのんよかつたんじゃ ねーじゃろうかち思う。

一頃は長浜…中島經由ん運転営業も討議されよつたが 採算問題から無理じゃつたんか 結局はバスん運転になつちしもつたごたる。交通手段を先取りした電車も 73年あまりじ姿を消し県内にある 私鉄も次々と廃線になつちしもつた。これも世の変貌じゃつたんか惜しまるるが。

子供ん世界…こぼればなし

平成12年1月に発行しち町内ん 小学校 中学校生徒全員と教諭に贈呈した 『やさしい野津原ん方言歴史ガイド』 なかなかん評判じゃつたらしい。こん冊子にゃ主に旧肥後街道ん恵良かる今市まじん主な歴史関係に絞ったけど まだまだ一杯オシナギーモンモ 残っちよる。

書き足らんじゃたもんぬ幾つか拾うち見た。

広瀬ん渡し…二の瀬とん呼ぶ 瀬を渡るんじゃが水が多いと渡れんき 入蔵かる塚野に回ることあった。ワベツトん崖つぶちう通ると 馬が足う踏み外しち川に落ちクウダリする。コキー供養塔も建てられちよる。

地蔵谷…役場ん脇カル元ん役場ん横に南カル北に 流るる谷う地蔵谷ち言いよった。が野津原ん町筋が整備された時い埋めち 権現村寺町〈現本町ん一部〉が古町〈現本町ん一部〉と ツラノータ。こん道脇に今も愛宕城築城ん時ん人質『おきく』ん 供養塔がある。

組石橋…明治になっち熊本県道が出来ち往還ち言う。途中で石ん組橋が見事ち一架かちよるが 案外知らんしが多い。小岩戸橋 下詰橋がそれじ法泉橋は大正になっち 出来たき美しい景観がある。前ん二つが男橋なら 後んな女ご橋か…下かる眺むると股クロー見るごたるき やっぱ女ご橋じゃろう。

横道出水…ヨコドーン岩ん所どころじ チョロチョロち水が湧き出よる。歩くしが喉う潤おしち一休みすりゃ眺めんいい事。駕籠かきが腹うたてちホキンハナに せり出えち客がコトワリう言うたんも ユウワカルごたる。ササミズとん言よったがまあ出よるかな…。

方言単語《追加その1》



方言
単語

- | | |
|--------------------------|---------------|
| アイコ……同じ | アエクル……混ぜ合わせる |
| アオーフク…泡をふく | アオタン……青白い顔 |
| アカレタ……嫌われた | アガリハナ…座敷ん上がり口 |
| アガリダン…はしご段 | アゲナン……あんな人物 |
| アサッテ……翌翌日 | アセクル……あさりまわす |
| アタダニ……急に | アリシコ……全部 あるだけ |
| アタル……さわる | アバルル……乱暴する 騒動 |
| アレジャ……あれです | |
| イカシ……生かして | イケン……いけない |
| イシャコロシ…どくだみ | イジラガイー…むず痒い |
| イッカヤス……傾けて出す | イッコム……そのまま入れる |
| イッペンギシ…一回かぎり | イランデ……いりません |
| イランナ…いりませんか | |
| ウンスケ……焼き物の水入れ《主に焼酎など入れた》 | |
| オリイヤ……おりなさいよ | オルカエ……おりますか |
| オロージ……大声を出す 叫ぶ | オーネ……おおもと |

オシコミ……押し入れ オッシャリテ……口達者
オバルル……おんぶ おぶさる

……カン……ですか カタナデ……なで肩
カッタ………借ります 買いました 勝ちました
キニョウンバン………一昨日の晩 キョウビ………この頃
ケシカラン………大変 おおごと 許さん
ケンド………ですが でしょうが それでも そう言うけど
コラナー………これはですね コビル………おやつ 小昼
コゲ………おこげ コクル………倒れる 転ぶ
コタエン………たまらない コワカリ……細部までよく解る

サーチュウチ………すぐ何でも サカトンボリ……逆さ反転
シチョツタ………していました シチョル…………している
シテ………おこなう シテンイイ………してもよいですか
シヨッタ………していた シキル…………できます
シコタマ………たんたくさん ジッター…………実直な人 者
シナカス…………死なしてしまう
シャツチ…………どうしても 無理やりに
スットンカワ……うそばかり スポンコ…………居留守にされた子
スル……………します しました 実行
センデン…………しなくても セセクル…………いじる つつく
ソーツク…………歩き回る うろうろする
ソイジナー…………それから それからですね

タカヒビ…………足のつけねのひび 高い場所のひび
チャニスル…………話の種にする 卑下する
チョルケン…………なっているから
チョーシンカワ………調子者 調子がいい話し ことば
チットンズツ…………少しずつ 小わけしながら

ツッカカル……足がかかる 物に急に当たる
ツカッチ……浸かる 日参する 入念になる のめり込む
ツツクル……つきまわす つついて見る
ツリアガリ……のめり込む 舞い上がる おっちょこちょい
デキラン……出てこれない 出られない
トコリー……所に ドットン……次々と 気忙しく

ナデチャンナー……撫でてあげなさい
ナンコム……投げこむ ニギニギ……にぎりする動作
子供が手を握る

ヌイアゲ……着物の縫いあげた分
ノボセアグル……騒がしくてイライラする
ノンダ……延びた 飲む 飲みました

ハエーガトリエ……早い事が特技 手早い そつがない
ハゲラシイ……歯がゆい じだんだ踏む
バル……放尿する 排出する
ババイイ……まぶしい まぼゆい
ハンヨロケ……半病人 健康がすぐれない人
ヒンガイチニチ……ほとんど一日 朝から夕方まで一日中
ヒキサガス……あたりに散らかす 散乱させる
フクマスル……口に入れてあげる 意味をよく説明する
フム……下駄を履く 新しい履物を履く
ベベンコ……肩車 牛の赤ちゃん
ビビンコ……肩車
ヘンジョコング……不平たらたら ぁつちこっち思いが決まらない
ホイジカル……それで 穴をあけました それからですね
ホイダデ……ほぎましたよ
ホイジョケ……ホイデほいでおきなさい
ホイダニー……ほいだのに ボヤット……ぼんやりと
ホラーフクナ……うそを言うな 冗談がひどすぎる

ミチグソ……道草 遊びながら
ミシクル……みつける さがす
ムドガル……かわいがる 甘やかす 大事にする いたわる
モガワン……反抗しない 反対しない 言うままになる
モウカラ……今から こんなに早くから
ユウキタナ……よく来たな ヨイショ……かけ声 力を入れる
ヨーニアウ……よく似合う その人の個性が出る
ヨシレン……わけの解らぬ 理解に苦しむ
ロクロシュウモネエ……ろくに どうにもない
ワーマク……賑やかに騒ぎまわる 有頂天に

方言単語の追加を加えました。『野津原方言集』の 前編 後編
こぼれ話し……以上平成10年に発刊。

続編 No.1…平成11年発行。続編 No.2…平成12年発行。続
いて 小学生 中学生向けの『方言 歴史ガイド』も この年に
発行。続編 No.3が平成13年に発行されました。

以上の7冊に方言単語が 約4900語収録してありますが この
追加分はそれらに漏れた分です。総計約5000語となりそうで
す。ボランティア活動で平成4年から 約11年間取り組んだ会員
の 足跡を残すためにも 暖かい故郷の無形文化財…野津原方言を
次の世代の人たちが 調査研究する資料になれば幸せです。

そんな思いを込めまして 平成15年に発行予定の続編 No.5は
『野津原方言…単語集』として 編集。印刷の準備に入っています
ので ご期待くださいまして ご愛読のほどをお願い申し上げます
。限定100冊で発行予定です。



五助馬子唄
街道は
なご



N.S

五助街道馬子歌ばやし 『寒くうねえかち』

高え山に雪が見ゆるもんじゃき 風がツメテ一先足先がコゴユルような朝。五助ん仕事たあ今日もセワシュウなつたごたる。仕事があるなあサカシイ証拠 そげ一思ゃ一元気も出ちくる。山仕事うするしがオルンジャロウ煙りが流るるき 時々火にあたっちカジケた手先うヌクムルンカ。

割木う割ながら側じテゴうする若嫁ご。秋にアルイタばかりじ慣れん仕事じゃが 婿じょうと一緒にならそれん幸せ。こないだどま婿じょうがおらんき 淋しいごたる風体がムゲネー。知らん所い来ち頼るな一婿じょうだけ そげ一思ゃ気持ちがゆう解る。家じゃあんまり仕事もさせんじ育てたんか 甘えも出ちくる。

『寒うはねーか』『…………』『火にあたりゃいい』『そげ一しゅうか』 返事があんまりゆうねーなヒジイいじゃろう。けんどヨコウウケニヤイカンキ。火の側えくるとシャガミクージシモウタ姿に ヨンベそげ一無理うはせんじ。若えき晩のあれはヤッパ待ち遠しいじゃなからうか それもセンノジャむげねこされ。

『よーい 火はショワーネーカ』 五助が下ん道かる声をかけちきた。『しよわーねーで 寄らんじ』『や 寄ってんいいんか』馬を繋ぐとギシュウハイアガル。『若えしんジョウジャキ 気がきかんち…………』『そげんこた一言わんわな』 嫁ごが恥ずかしそうに『お茶でん』 ち愛想ゆう声を返しち顔う赤うした。

寒い時あ無理センゴツ寝つくと苦も見る 心配もする在所に居る時んごたーねーき そげな謎かけしたゴタル話が嫁ごにゃ嬉しかった。指し出えた茶碗の茶をススルト 『チッターナレタナ』『ウンマァ』 生返事もゆう解る…『春になったら遊びつれち行かにゃ』『そげ一思うちよる』 そんな言葉が嫁ごにゃ何か嬉しゅうじ。

『今日は五助さん炭おうせな』『せわしいちアタデ言うち来たもんじゃき』『ガイトーモラウガイイ』『それがシミッタレジャキナエ』 コシイ者んち評判のしジャガ 仕事じゃきキネじ鼻うくーだ おつ 断わるわけにゃいかんし。まゝ一日ぐれーわ辛抱シュウチ。コシイ男しんわりにゃカカわ あっさりしちソレジモチョルんじやろう。

『いつも済まんえ無理う言うち』『インゲンコト 仕事がありゃ有難えきな』『そげ一言わるりゃ助かるわな』『あんまり喧しいごたらコイサ炭じ汚れた手じ ヒンニギツチャルガイイ』それが又おかしかったんかコケマワッチ笑う。滅多えに笑うこたーねーんか家ん中が 暗えもんじゃき人があんまり寄りつかん。

『五助さん今日は色が黒うなるで』『そうジャチャ白いんがノヤ黒うなると お前かるも嫌わるるしコライーヤ』『コラエンデ早う仕事やめち湯にドマ入なー』『それがお前バンガタマジかかるごたるき』『ムゲネーナーこいさ夕飯炊いちょこーな』『炊いちくくるや済まんのーこんだチョコット撫でちゃるわい』『ふんと 楽しみにしちよるで…当てにゃせんけんど』

五助ん人間性にゃ皆が好きになるき 影かる支えちもくるるし加勢もしちやる。ヒカット悪うなったりすると近所んしが 心配しち食いもんかる掃除まじも。娘ん『おみつ』も時にゃ甘えち皆んなに 加勢しちもらう愛敬者。親子が皆んなにユウスルンガ 回り回っち自分に帰っちも来る。ヨクシーん炭焼きに比ぶりゃそりゃもう月とスッポン。

おみつん嫁姿トォ早う見てーち言うが 一人娘と父親ん暮らしにゃどうしたもんか。真っ黒になった五助にも悩みがあるが そげなこつー苦にせんいい所もある人気者でんある。

そん 3 『鍬にち一た泥』

『ちった一ノサンカ』 麦んなかうちっしよったら 顔なじみん五助さん馬う引いち上りよる。『今日はどこまじ』 愛想ゆう返事しち聞くなりチョイト腰うノシタ。若エチュウテン毎日鍬仕事とんなリヤ ずう腰も痛うもなる。親たち慣れち何年もしち来たがウツドウこん道じゃ素人。たまにゃ泣きとうもなる。

畦ぐるまじ来た五助さん 馬が草おコブルに任せち話しかけちくれた。そん間だけでん仕事ん手が休まるるき ハリクージち思う気持ちたお裏腹え 『ドゲーデンいい』 ち ホタラカシトウモナル。『時にゃ要領ユウせんと先が長えき身がモタンデ』 若え時おチュレンニシチョカニ ья年う取ち腰が曲がち 婿じょうかる嫌わるるで どげ一するかえ』 『チャアリヤ ドゲーシュウカ そん時お五助さんカテ一行くわな』 『なにえ そりゃボクじゃ』

話ながらデン若えに似合わん 鍬ん土う落としよるぬ見た五助『そげんこつ一誰かる教ワツタンカ』 『泥おとし』 『うん 若えにゆうそげんこつ一スルノー イチゴモネー』 『隣んばばんがこん前な』 『へーあんばおさんが ユウマァ』 『ちゃーおかしい』 『いんにゃ よっぽず気に入られたんじゃな 滅多え人にそげんこつ一』

ちょこっとなヨコウ時間でん泥う落とす そん心がけは物う大事にスルダケジャー 自分の心ん美しさも見せらるるごたる。人ん出会い巡り合わせは不思議なもん そり一こげな優しい心使いまじコソツト 教えちくれた老人は自分と言う人間ぬ そげな目じ見ちくれたんかち思うと嬉しい。鍬は使わるるより泥ん辛さがヒジイ。

『お前ゃ幸せ者じゃの一 これからも頑張れや』 『おおきに今日何か仕事がハカドリソー』 『ソリー婿じょうんサービスもいどいいか』 『なにえ……』 『解らにゃもういい』

そん 4 『子牛んウブ声』

朝草切りかる帰ると もう3つにもなるに乳うほしがる。アガリ口い立ったままザかるスワブル。女ごは乳うスワブラルル時ッソリヤー モテングツ気持ちもいいもんじ クタビレも一遍にふっ飛んじしまう。朝露じぬれたノコギンノ滴が足う濡らす。オヒツに取っちくれた麦飯んキツネ色んコガレ ポットぬきーに鮎味噌うつけちゴゼンサキジかきこむ。

『どっやら出来タゴタルど』 馬屋ん方かる牛ん子ん生まるる声 がしち ハゲシュウ茶碗ぬ洗い桶にサゼコムト 飲みたがる子供うセリノケチ『もういいで後にしな一』 『出来たど ウナメンゴタル』 『なにえ 早えな一もう出来たん サンガカルカッター一』 嬉しい子牛に宛にしちよつた思いが 又クチボコッチシマウ。

無理もね一小作ん土地じ米 麦う作るけど オオカタ小作に取られちしまう。銭がいつもね一ち泣き言う言うと 『ほんなヨシー嫁ごに行きゃよかったに』 愚痴デンネーガ婿じょうも言いと一わね一けど。『そっじゃね一んで 働いてんなかなか貧乏かる抜けられんき ムゲネーコト』

子牛がセリい引き出す頃にゃ 米もデキアキジチッターイイ気持ちなるか。ゆう飼おちょきゃ高う売るるき そげな夢がクルクル回っち空に上った。『アリュウみな一もう立つたで』 二人んトンキョウン声に乳うほしがる子も 嬉しいんか側にツージ来た。ヤウチガ喜び皆なじ飼ゃヤンガチ トビハネチ回るごつ太るじゃろ一。

『銭がノーデン心まじ貧乏になるな』 ゆう里ん親が口癖に言いよつたが 染みついたそん言葉が抜けられんごたる。早うブゲンシャち言われんでん もちっと銭がアリャナーエ。まッ銭は天下ん回りもん…とん言うけど。

『人ん一生は重い荷物う持ち坂道う行く』 のと一緒にじゃき一頑張らにゃ。五助さんがゆう話すモンジャき 誰でん知っちしもった。機械ん動くに一揺るるクモン巢が粉じ白いんが マッポシ判るクルマン片隅じ秋にゃアルクハ娘が物思いに嬉シイント不安が妙に交差しち 目の前い優しい婿じょうん顔が浮かんじくる。

カチ思うと怒る顔に変わっちタマガッタゴツ あたりゅー見回すと顔なじみん 近ごろ来た若嫁ごが荷をカルーチ立っちょる。『カッシュウナー コッチオロシャイイ』『オーキニ早う来たんな』『さっき 小米うスッチダンゴ炊くち言うき』『チャーウマカローゴタルナ』『あんた好き 食ビイくりゃーいい』『ヨカロウカ』

隣近所んしはイケウチと一緒に 気安う声もかけ誘いもすりゃ食うもんでん 行ったりもろったり。じゃきサーチュウトキンまにあうんじゃろう。近くん他人ち言うごつ大事にしな一えち ゆう言い聞かされチョツタモンジャ。『あんたアルクち言うたなー』『おおきに 特別世話になっち』『インゲナコツ 婿さんなイイシ』『まあなー はじめちじゃきー』『心配せんでんいいわな オカチャンにいろいろ聞いたな』『…………』 だまっち頷いた。

年頃になってん夜んコター知らんシが多いが イツンナカメーカ憶えちくる。でん嘘う習うたり教えたりするしもある。始めちん事じ逃げ帰った事もアッチ アリツケバアサンがヘッケモッケする。『時々な 母親に葉うやりて一きち言うち在所帰りしな一え』『何の事な』『そげ一言うゃ母親に何か夜ん事う相談するんじゃろうち一晩泊まりじ帰らるるき』『チャーいい事う聞いた』

そんくれー聞いたら娘も落ち着いた。不安になるけど人並みん事 男と女ごん営みにゃコミイッタリクツが あるごたるがマジナイじ安心。

夜風が涼しうなっち昼間ん暑いノンガ 嘘んゴタル夜になると若えしゃ楽しみな 出会いが待ちよる。同じことん繰り返しん話でん 時ィ肩う叩エタリシチいつまでん続く。イドラン花が白い花お一杯つけち香りが流ると 気持ちも和うじ昼んダリもふっ飛うじしまう。

川原にシャガミクージ笑い声が時々。ソレカチオモットおとなしゅうなっち何かシヨルンジャネー。あっちこっちじ『知らんで』なにか無理う言よんのかしれん。湯上がりん女ごん香りにゃ仕事うする そん格好た一全然違うた感性女らしさが 仄かに燃えちよるごたる。『口笛吹イタジャロウ』『判った』 義姉さんがキガチーチ『かたずけンジイイキ早くウ行きなー』ち 『気が利くなぁ』『うん……いつもスマンけんど』 やうちがフウイインジャロウ。

『コキー来りゃいい』『うん』 じわっと側に座り込むと『あー』ち ため息うちーた。こん娘ん癖じ次ん動作を待つ構えんごたる。『暑つかったなえ』『暑い こげー黒うなっち』『どう 見せなぁ』 そっと手先う引き寄せち握りしめた。『あー冷てー』『ほんとな 夜露に濡れたきー』『拭いちゃろうな』 娘らしい心つかいは女性本能をモロに出して。それにも甘えてーごたる。

じっと寄り添った二人ん肌ん鼓動が 高鳴るごたる夜風の通り道じ じっと目を閉じたところソロット両腕う回した。それにゃイヤトン言わんじサルルママニ。大声が近くじ上がったもんじゃき皆んなが タマガッチシモウタ。どうやら大けなワクドが出ち来たごたる『お前どうヒロゲサゲーチョルト 股くれーヘールド』 ドット笑い声があがったもんじゃき 残念無念今チョコットン所じ……。

五助さんの話があんまり面白いもんじゃき シビッタシモ居るんじゃねー。

五助さんが休みは16日に決めちゃう。自分もヨコイテージャロウが馬もヨコイタカロウ。大豆粕う刻うじハミューはりこ一杯に。おみつも朝かる墓参りい行くち出たが トギン所にでん寄ったんか帰っちこん。横にゴロリンコ五助さんもウタタ寝しよったら 足音が近寄った。『弁当箱んイランナネーナ 飴と変ゆるで』 朝鮮飴うかたげちくる商い。子供が飴ほしがり 使わるる弁当箱う 持出えち怒らるるんゆう聞いたもんじゃ。

肝いりがフレゴツ言うち来た。『こいさ祭りん寄りうするき』 『もうそげん時期にナツタンカノウ』 『それで油断ぬしちよると冬がすぐ来るき』 五助さんに何か話しゅうサシュウチ水う向けた。『やんな中々話が上手になったのう 誰い似たんかや』 『知らんでわしゃ思うたこつ一半分も言えんきな』 『それじ半分か やんがカカお貰うたらソリヤー忙しかろうのう』 『そりゃードゲン意味な』 『カカと漫オんごたるち思うど』 『そうかなー』 肝いりゃ先が忙しかろうに ずりあがっち話し出えた。

もう晩方まじショワーネード。おみつが帰っち来た 『今日は又あがりくーじ何事な』 『五助じいさんが上がれち言うき』 『ホローフクナ お前こす寝むてーに話しかけち迷惑ど』 『りゃーオロイイノー もう帰るき』 『そーかいヌルカ サイナラ…ありゃまあおったんか ほんな飯でん食え』 『オサイは何んな』 『そうじゃの一夜ゼンナ『ボタモチ』 ジャツタガ もう食うちしもうちのや…おみつ』 『アレジャ フント人うチャにしちよる』 『まゝ茶を飲みよ』 おみつが気をキカセち ヒキノベう出しちクレタ。

何の遠慮もねーきサーチュウ時にゃ助け合う。困った時にゃ自分の事んごつ心配もしちくるる。五助もおみつも 幸せもんじゃのう。ヒゴロユウスルキ久しぶりんヨコイも五助親子は忙しいごたるが。



投げあげたコエマツがイアンバイに 受け皿に入っちノコクズに
火がチータ。毎年やってん難しいがヤッパ子供ぁ 欲がねーきか調
子ゆう入った。今年も送り火ん晩 初盆の精霊がこれじ安心しち
ヨミン世界に帰るんじゃろう。自分かたじ出来んしの分まじ 一緒
にしち送るソゲナ思いやりかる 柱に火を点す気持ちかる始まった
とん言う。火ぶりん格好も見ごたえがあっち。

『出来ん家んしの分も皆じシチャロウエ』 優しい思いやりん心
が素朴ジャガ受け継がれち コイサも無事に終わる。青年しは思い
思いに夜が更くるぬ楽しむ時間である。『今夜ドマシテーナエ』
久しうシチヨランノカ悲しげな声じ…『イイケンド』 相づちう打
ったな一同じ青年団の世話役。キリョウヨシジ優しい。

『そげ一言ウットーも長うしちよらん』『じゃろうホイジャ
キナ』 もう目の色がかわっち弾みで一た。ガヤガヤ盆の終わりじ
ゃき 明日かる又忙しうなるとソゲン事どころじゃねーち 怒らる
るんがセキノヤマ。表座ん広イ世話役んしの家に寄っち行く。恥ず
かしいしもオルカンシレンが。

『あんだどーいつ頃覚えたんな』『ウットーたしか6年生頃かな
ぁ 隣ん兄やんにシチミラレカち言われち』『ソゲー早うえ そんな
時ぁどげーじゃつた はじめちじ困った』『無理う言われたごたっ
ち それでん何とか済んだ時ぁシチヨカッタち思うたで』『それか
るはアンシトシタリこんしとしたり』

誰しでんスルナー田舎じゃきー仕方ねえ。嫌うとハダケラレチ遊
びも仕事も 寄り合いもカテチクレンゴツナル。『アイタツキアイ
ニキー』チ すぐ評判が立つ。嫁ご見にでんくりゃ聞きツクロウに
『ありゃー悪いドマ言わるりゃ』 集まったしんジョウデンいい

ジャーナーナ 早うしゅうえ……上手になったしどま急きでーた。

『五助さんぬユージキチ読んじもらおうか』『こいさ用事がある
ちコシラエチョツタデ』『ほんな おみつちゃんもオランノー』
『アンシモ内緒じデーブン誰とでんシヨッタデ』 車座になったき
団長が『ほんな俺が読ムキこん次ぁ一番ドベンしで』 読み札をク
ロットめくると手際ゆう 読みでーた……ひさかたの 光のぞけき
春のひに しず心なく花も散るらん……

.....
そんな 9 『旗立て場』

『もう皆んな揃うたんか』 朝草きりい行く若えもんが集まるん
は 旗立て場。道ん辻になっちよるきここじ待つちよる。『揃うた
ど行こうや』 牛を追いながら山に入っち行くと草原に出る。共有
ん草切り場じゃき誰でんイツデンいいごつ そいじゃき若えしも皆
気揃うち安心しちコラルル。

『はじむるかのー』 若者ガシランしが言うとなう放しち めい
めいが切りはじむる。露がしっぽり濡らした草が切れ味んいい鎌じ
ザクザク切り払われちイイデじ束にさるる。大けん輪がチョコツ
トンなかめー出来ち 上荷まじ手慣れたもんじゃ。『そっちん方は
もういいんか』『……』またアイツドーはドキーカシャゴード。

好きな者同志が時ん間ん恋心う燃やしち 抱きオウチョルんじゃ
ろう。そげな光景を見ち見んフリーするのん ヤッパ友達同志。
朝ん草きりがヤンガチ夫婦にもなっち 皆かる祝われる事じゃろう
が 今日も又暑くうなるごたる陽がサシクーダ山道。若い時代に思
い出も仄かん草きりは いつまでん忘れられん風習でんある。



そん 10 『黒砂糖びやき』

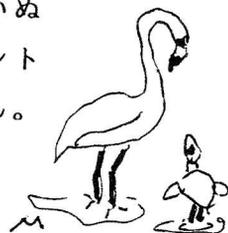
ちよいと暑え日のツジウヨケチ チット涼しうなっち田の草取り
い行く。昼寝もサカシイ元いなる生活ん知恵 こげ一暑かりゃもう
下ん方は泡う吹くかん知れんで。ヨツアゲチ寝ちよりゃ風通しも
ダリも抜けち行くごたる。それでん母じょうが火焼きう作るぬ見ち
側え来た。女ごらしい考えがソゲーサスルンカ。

ヤンガチよそん家ん嫁ごになっち 『何にもシキリヤセンじ』
ち言わるんなーはがいい。男しニャ働いちもらわにゃち 優しい母
性本能がモロに出るんか。そげな生まれ育った宿命に娘も 自分か
る覚ユウチする気持ちが燃えちよる。薄着した白い肌が夏ん暑さに
所々黒うなつた。気になるけんど仕方ね一暑さ。

『ウモウナッタノー』 父親がセンチンかる帰るなり笑ッノ
娘が一人前になった嬉しさか。『オダテテン焼酎は出さんで』 娘
も嬉しいぬエートコラエチ 親にバッポーかけた。『いいど そん
かわりヤツガイによきーツイジクリー』 甘えたゴタル親ん言葉に
『考えちょくわな』『こいたーもう』 親父も喜ぶ。

『田のクリー置いちょくとヤリがつくで』『茶をヌージ行きゃい
いコターネーカ』『それもそーじゃーなー』 折角出来た黒砂糖入
レタノ火焼き コビルニャチット早いえが荷も軽うなる。家族が皆
んなサカシイキ仕事もハカドル。食えるるな一暑いに負けんデー
ナ事じゃき。『オカチャンモ食ベナー』『わしゃ後じいいわな』

汗が流るるごたる昼下がり 股うハタケチ風がすーと抜けたら
ヒヤットシタゴタル。ムスメデン暑いなー一緒ジャー遠慮せんでん
いい。時や人間らしい姿もいいんじゃねー。暑苦しいぬ
やせ我慢してん上品ブッテン それより節度がシャント
シチョリャナエ。いいことち思うがどげーな五助さん。

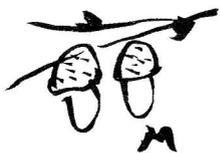


うしろかる抱きつかれちタマガッチ きゃーち声う張り上げた。
神楽も夜がフクルトもう舞うしも見るしも キアイガイッチシモウ
チ いいこち一女ごしん尻う撫ぜ回すしも。ソレガマタ面白いチ見
ちよるしも ケックシャトッパじゃろう。けんどそげな素朴じ憎め
ん風習が 里んいいところかん知れん。

『面白かったな』 はじめち神楽お見た町ん娘がツレノ一チ来た
しカル聞かれた。好きになったんか祭りにヨンダラ来たき 神楽お
見セチャローチお宮に。町育ちにゃ物珍しいんか帰りタガランき。
『まだあるん』『まゝ2つあるごたるで』『見て一わ』『好きじゃ
な一フンナミロウカ』 風がチット一涼しスグルゴタル夜更け。

『アイ』 と答えち素直に言う事う聞く 神楽地区んシニャ祭り
が忙しいばかり。『呼ばんじ来るんが祭り客』ち ゆう言うけん
どダマシ来らると困るな一こまる。でん婿じょうん顔もあるき愛
想ゆうシイル酒やら餅。いいぐれ一チョチョラユウチ来たしなんか
『どげ一な 親父〈夫の意味〉 ちゃ好きじゃきセセロシカロウ』
『ソゲーネーデ』 負けんごつ返事ゆすると『ほんな一番サセンカ
ナ…とクリャ』 日ごろん冗談トッパ口がチョリ出た。

百姓したコターネ一ニ来たんも縁じゃろう。神楽ん忙しい仕事も
運命じゃつたんか 八幡様ん祭りジャドゲーシテン舞うこち一。じ
ゃき一か病気もせんじ牛もゆう育つ。来たカラは辛抱しち頑張らに
ゃなるめ一 今更親元にゃ控えた義姉が来たき。オカチャンも大事
しちクレ Chol ごとるき 自分もこん家ん親をデージせにゃ罰が当
るかん知れん。



『寒うなったに』『そうな』ち自分の上着を着せち
ゃると『帰ろっか』『アイ』 顔見合わせて笑顔が愛
らしいが 月ん光じ特別ゆう見ゆるんな欲目じゃろ。

『なにえ まゝ上がんなー』 五助ん家に荷物カラゲチ若ゑ嫁ごが来た。『それじ喧嘩ん元は』『チット気分が悪かったき起クルんが遅うなったら もうブツブツ言うち炊事うシヨルンデ』『いいじゃねーな サセチョキャヨカッタニ』『ソゲンワケニヤいかんがえ…歯がイイき婿じょうに…チヨイト見テーちっと遅いと すぐアゲェアテツケチ』『……』『タスケブネ出さんのな そりゃー悪いど』 五助さんが聞きちるうちユウベかるんシコリも……

『まゝ今日はここじヨコイナ そんうち迎えに来るじゃろうき』
『来ん時やどげーしゅうか 在所に行こうかちおね思うちよるが』
『来るわな 婿じょうも判ちよるんじゃねー そりー在所に行く
と親がドンクレー心配するか ユウ考えにゃな』 五助ん話にちった
落ち着いたんか 『腹がへつたー何かたべサセテ』『フントモウ
困ったやっじゃのー』 笑いながら五助は茶タンスかる ヒヤキう
持ちきた。『おみつん残りじゃがいいな』『おみっちゃんな』
『手マガイに行ちよるんで』『ゆう働くなー ふんと一人ん時が
よっぽずよかった』『そりゃーほんとかえ……』

心許さるるしが側におるき甘ゆるんかん知れん。じゃが相談ぬ受
くる五助にしてん役に立つち思うと おみつん行く先も考えち出来
る世話わ シチャロウチ思う。同じ年頃かチット年上か女ごん性を
引きずる そげな気の毒な…なら尚更支えちゃらにゃムゲネーキ。
『イットキ横いなっチヨリヤイイ ちょいと組合まじ行ちくる』
『そーな居ッテンイインナ』『いい いい心配せんじ 婿じょうが
来たら話しチャルわな』

甘えらるる家がある幸せうかみ締めち 横になるとダリが出たん
かうトウト。里ん親ん顔が灰かに浮かんじ来る。苦勞シチヨルんじ
ゃろうち言いたげな それが言葉に出らんな一嫁に出したかるカ。

『ただいまー』 顔なじみんソシチ娘んごつ ユウシチクルルんもんじゃき こん頃はもう自分じ娘ち思うチョルンジャロウ。五助にしてんモウ 娘ち思うち迎え元気な姿にヒョイト安心もする。顔を見ると 元気に仕事うしよる 時どきゃヤリアイヨル ソゲナ感触う受け取るるき尚更 娘んゴツ気になり苦にもなる。

『元気がよかったんな』『ショワーネーデ 大丈夫で』都会育ちがソレモ縁じゃろう 田舎ん百姓に嫁に来る。人間の宿命ターソゲナ巡り合わせにもナッチョル。ジャキ五助さんとも出会っ不思議な人生かん。『どきー行っったん』『ココマジ 顔見に』『おーきに』言葉に出ランホズ優しい気くばりうするき。

潤いんある声じ言わるりゃもう 年寄りにゃ何にも変えられん宝んごたる業。苦勞した旧態依然の生活習慣に 惨めんイノチキうしよった頃 ヒョカッ村役場じ待つちよつた時 アメガタウクレタそれが娘とん出会いジャツタ。いろいろヒマツブシン話が弾うじ 五助も何か自分の娘んごたる感覚に誘われちシモウタ。

それかるわ娘も出るタンビにゃ立ち寄り 五助もオリユウ見ちゃ途中じ話したり。喧嘩ん時どま 『在所に帰る』ち言うたもんの遠いもんじヨダキュウナッチ 晩に来た。話しなだめちよるうちーに胸んつかえが取れち アッケラカンと夜中え帰って行っった。やっぱ優しいんじゃろうち思うと 『絶対支えちゃらな ち思うたそれかるもう親子娘ん時代が続いちよる。

五助さんもカケガエンネー娘なら そんな人も親んゴツ甘えらるる 近くん他人ジャキ もう親とオナジンごたるき病気ちや苦にもする。『ショワーネーナ無理すりゃ悪いで』時にゃしからるるんも本当に思ゃこす。『オルカエただ今』 ほら元気印娘が五助ん顔がホグレタ……。

△ 豊後の岩戸

君よしらずや我が故郷の 七瀬の川の上流に
造化の神のノミの跡 豊後の岩戸の聳ゆるを

千古の昔地変のために 自然に生まれ出でたるか
水なしたる業なのか 見事に切り立つあの岩
ウツオのはななる松林 ウツオの川を見下ろして
辻原ぼるを真向かゝに 立てられし戸豊後の岩戸

七瀬の川にゆあみせし この村人も今になお
不思議の扉の存在を 知る人なきぞ口惜しや

死して地獄に落ちし時 閻魔の王の立ち賜い
三国の峠と豊後の岩戸 見しことありやと問い賜う
その時岩戸をみし人は 極楽浄土に送られて
岩戸を見ざるその人は 地獄の噴苦にあうという

いにしえよりの伝説を 今は大方回え果てて
自然のなしたる神秘のわざを 知る人なきぞ恨みなる
人もし七瀬をさかのぼり 千古の秘密を閉ざしめし
神秘の扉開きなば 造化の神もよろこぼん

△ 亥の子の歌 《杵ヶ原地区》

今夜の亥の子 祝わんものは 鬼生め蛇うめ
角生えた子生め ここの屋敷よい屋敷 中はぐっおーで
がはたこーで

竹刀踊りから 『春徳丸』

よそにゃ哀れな話がござる サノヨイサノヨイ

京の清水観音様に サノヨーヤセヨヤーセ

99本の針うつ人は どの人どの尋ねて見れば

国はご畿内い河内の国よ 河内国では信義長者

末の代を取る春徳丸は 年は15でまだ丸びたい

紅の牡丹に朝日を受けて 瑠璃をぬべたるそのぬめ器量

なれど春徳哀れな生まれ 先の母様幼少で分かれ

継母連れ子に梅若丸と 年は七つであいらし盛り

そこで母様悪事が起こる 兄の春徳ないどえならば
西や東のこの家倉や 北や南のあの田畑を

弟と梅若取りしょうがままよ 毒で殺すはいと安けれど
年忌供養のいりかが多い いっそそれよりゃ神さんに頼み

知らぬ他国に追い出したなら 日乾水乾し他人の中で
難儀しやると春徳丸よ 母の悪事は日に日につのる

あるし信義おばに寄りて 申しこれいな信義様よ
私しに7日の暇下しゃんせ そちは7日の暇なにするか

兄の春徳ほうそもやむが 弟梅若ほうそうの時に
京の清水観音様に ほうそーしゃすしのご願がござる

ご願成就に参らせ賜え それはお千代はよい思い付き
輿か車を仕立ててやろう 輿や車は私しゃいりませぬ

はだし参りのご願でござる サノヨイサノヨイ

サノヨーヤセヨヤーセ

セやまげ ばなじ

『寝ゴザうち』

田植えもエートスンジ表座じ横イゴロンち 『さあ寝ゴザでんうつか』 たまたまソキー通りかかった『ゴザ買い』 今日ハマゴザを買わんまま。聞きつけたんもご利益か固唾うヒンヌージ 門口い立った。『ゴザがあんのな一高くう買うでワケチョコレ』 モウ商談成立間違いなし こんまま帰ってん構わんぐれ一ん気分になった。

田舎じゃゆ一昼寝するぬ一“寝ゴザうち”ち言う そんな癖がチョコット出たもんじゃき。親父がタマガッチシモウタ 冗談とん言えんごたる 買い手はコゲナコター知らんしジャローキ。咄嗟に考えち一たんが 『あんな一娘かたがゴザう作りよるが 今頃ゴザうちヨンノジャアルメーカーチ 思いよったモンジャキ』『そげなことじゃつたん ヨキー買えるるち喜く一じよたが シヨーガネーナァ』

『まゝ折角寄ったんもナンカン因縁じゃろう 茶での飲んじ行きな一』『おおきに ほんなヨバリユウカ』 ※ 茶を飲んじ 茶をぬ一じ 茶を食べな一 茶をセズルキ 茶を入るるき 茶をさすわな 茶を出すき 茶にせんな 茶にすりゃいい 茶を飲もうえ 茶柱が立ったで 朝茶は縁起がいいで 朝茶は難ぬ逃がるる 朝茶を避くるもんじゃね一 番茶も出花 若え娘はお茶うコビータチャ笑う。茶腹もいっとき 茶絶ち 茶た一知屋んこと…家を知る意味じ 結納にも入っちよる。『へーえ あんたなかなかヤリテジャナア こりゃ恐れ入り屋ん吉の助じゃわな』

通り雨が降りで一た『シヨワーネーワナ通り雨じゃき』『フントナエ ヨコエチ言う証拠じゃろう』 そんうち一雨がゆうだ。娘んかたかる 『ゴザが揃うたき高くう買うしが来たら言うて』 ち便があった。『ほらみなヨカッタナー茶はヤッパ縁起がいいで』 思わぬアキナイガ出来そうじゃ。朝茶がもっち来ちくれた福の神。

『牛見に来たよそんし』

『牛う見せちくれんなー』『……どこんしな』『いんにゃちよいと』 田舎じアタデ牛見にクルナンカ そりゃ嫁ご見に決まっちゃよる。『いいで………でんわしかたにゃ娘はオランダ』『ソウナほんなチョコット聞きてーんじゃが』『まあ上がんなーそこじゃ話しも出来めーき』 イナカハイイ スグ話イ乗っちゃうる。

のんびりシタモンジ近所に嫁ご見に来たに トリオーチアガラセチ 茶をばあさんに汲ます。ドゲューテンショウジキ 優しい人情深え。茶をくーじ運くうじ来たばあさんも 嫁ごに来ち65年にもなる。『イラブカサレチ来ちもう 早えもんじゃ』 オハグロん歯が美しいやらエーラシイヤラ。

『アッコン娘はどげんふうなえ』『おとなしゅうじイ子で』『親はとげーなえ』『親はマンマサンジャキ 言うこたーねーわなとてん』『近所んしが 男がどーでん好イチョルごたるき』『ヘーサジーナー今ん若いしにゃ似合わん』『こん前ん祭りん晩にな』『ふんとえーそげー言ゃ ばあさんが口ほこりヨッタワナ』

ここまじくりゃもう出来たよーなもん 『今日はオローカナエ』『山え行きよったごたるが モドッタカノ よいちよいと見ち来ちやれ』 腰う曲げたばあさんが笑顔じ見に行く。自分かたん事んごつ嬉しいんな コンメー時かる自分方ん子のごつ太ったき。牛も買うち帰るな…ちサスーチ見たら『今日はよかろう』

激しゅう顔う洗い化粧したんか チット汗う流しながら娘がついち来た。品のいい顔立ちん根かる優しいごたる体格 本人はレンコン食うちよつたごたる。瑞々しいアゲク色気匂わす姿に 牛見に来たしも生唾飲むごたる。ヒザマジーチチョコント挨拶する 成熟した女ごらしさがマバユカッタゴタル。

『出針ゃ悪い』

よそ行きん時いなっちホコレがあった。『ちょいと針う取って』出かけに針うツキムなんか 品も悪いしアブノーモある。ヒョイト針が折れクウジ残ったりすりゃ それこそオオゴトウツクリタツル。エンギが悪いち言うけんども まゝ常日ごろかるキチントしちよくそん心構えが大事じゃけんじゃろう。

気が利くしはイツモ針糸ぐれーはちゃんと 懐に持ちちよるもんじ困ったしがあったり ダマシホコレタリ 引っかけち破れたりすりゃ カタワキじアタデ繕いも出来る。ソクレー女ごは機転が利くんがいいちも。目かる鼻に抜くるはずシャントコベーも困るが。能ある鷹は爪隠すち言うこれもイインジャネー。

『入れ薬屋さん』

『今日わガイト飲んじよるきフーセンぬあぎゆー』 子供んやつゝ親ん錢うガイトー出すな一分からんじ 喜びまわる。富山かる奈良かる 熊本かる 佐賀かると方々かる 入れ薬屋さんが柳コーリに一杯詰めち てくてく歩いち毎日20軒ぐれー回るんか。次ん家に行くナカマデン慌てもせんし 子供がおると一緒にアスーダリもする。地域に溶けこむ人間教育がピシャツ。

あっちこんげん面白い話う持ちち来ち 情報ん交換もしたりもする。戦国時代にや全国に行商に出しち各地ん情報を集メタソウナ。そんカワリ新しい技術も持ち込み そん土地に根づいたもんもあるごたる。箸う貫うた年寄りも嬉しいんか イツマデン大事に使いよったちも聞いた。半年も家をアケチ出る留守にゃ 家族が無事を祈っち『影膳』ぬシチョツタチ 聞いたが富山ナンカは雪かる抜けち働く…知恵じあつたんかん知れん。



『松根油』

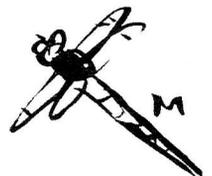
戦争が激しうなっち男しは戦地 女ごしはやうちう守り百姓は米やら 麦やら兵糧づくりにハリクーダ。タバコも魚も衣料も配給 女ざかりん月の始末にも困る事が多かった。学校ん生徒も勉強は寺お宮 防空壕 それもソッココじ 百姓ん加勢 炭焼き 松根油取り。暑いぬーコラエチ松んヨコタンに傷入れち 流れ出る松ヤニアアブロー取る。なかなかたまらんに一困る。

腹がへるけんち食うもな一百姓でんガイトーわねえ。じゃけんどほかんしに比ぶりゃまゝ何とかなった。モンペがフセダラケでん恥かしなんか 言うちょられん。おおかた体う包み隠しちよりゃイイコチーナル。竹の内じ油絞りん工場があっち集めたぬー。ガソリンの代わりちどんくれー飛んじゃんじゃろか。

『カッコー』

カッコーん奴あ人ん巣にイサギユ卵生みつけち 育てちもらうき他ん鳥はモテタモンジャネー。オオヨシキリどま親が卵生み落としち 餌を食いに出るぬ待つちよつち ゴソゴソ飛びくうじ時のメニ卵生み知らんぶり。親鳥が帰っち来ちチット大きいんがあるが あんまりタマガランノカ タマガッテン仕方ネーンカ。そんまま育てちくれる。

カイワレチ太るホンズツ食いもいいき オオヨシキリは自分がん子ち思い ハリクージフトラカス。ヤンガチ大きゅうなっち気がチータラ ほかん鳥ん子じゃつた時にゃもう 巣立つ時にナッチョツタ。何とんムゲネー理屈ジャガこれも宿命かんしれん。人間も時折り他所ん卵う育てたしん 話も聞いたゴタルが笑い事じゃねー。習性た一恐ろしいもんじ卵をセリ出す ひな鳥もおるき油断も隙もあつたもんじゃねーごたる。



『祝言から所帯もちに』

娘15にもなるとモウ成熟もシチ 一人前ん女ごらしいも身につく。仲立ちん世話じ誰か決まると それじ嫁ごに行くコチーナル。労働う目的にした嫁ご貰いも少のうネーキ 春先やら秋んシノウ前なんかが多うなつちくる。ソゲナ旧態依然のシキタリが平氣じ続きよった時代が長うあった。

ジャモンジャキ好きとか嫌いとなんじゃねえ 親が決むりゃもうそこじ話が進む。それかと思うとイツンナカメーカ 好きになった二人が身ごもっち タマガッチシモウチ祝言ぬしたり アチーナウチ慌てち戸籍入れたりもした。役場んしも頼まれち手続きうしちやる 字が書ッキランシモあったき。

さあ嫁ご話になりゃ仲立ちん出番が 忙しゅうなっち何べんも足うアッチコッチ運ぶ。親もゴネちみたり聞きツクロウタリもする。そんなうちドッチも『よかろう』になると いい日に日決めをする。仲立ちと本人と両親がみやげをサゲチ ウチソロウチ出かくるともう近所んしが見物に出ちくる。

時ん挨拶かる親子ん紹介なんか 仲立ちん晴舞台じゃが一つ間違うと ここかるでんへモドル。『ヤメタ』ちドマ言うとなんこすオオゴツ。ジャケンドまあショワネーガ普通じ 日取りも決まっちほろ酔い機嫌じ引き上ぐる。娘はこん時はじめち相手ん顔うチョロット見ただけ。

嬉しいやら不安やらもうドゲーシュウカ でん親がそんな気ならもう決まった日に アルクこちーなっち母親があれこれ教ゆる。『晩なコゲーこげーで……』『……』 シオラシュウ聞く娘に自分が同じ思いじアルイタ あん頃う思いでーちしみじみと話す緊張ん母娘ん姿。

仲んいいしが出来た娘はチョコット もう味も知ったき日が決まりゃ胸うナデオロス。まかり間違うちホタルルリヤそれこす サレ損になっち傷物んちも言わるる。こん時ん二人は横目じ顔見合わせち ニッコリ心ん中じ『よかったな』ち お互いが言いあう。もう決まっちかるはオンタカナシに 二人ん動きも活発になる。

祝言の日 嫁ごは神社じ長い間世話になった お礼と家族ん無病息災を祈願しち村歩き。晩方ツレノーチ相手方に輿入れ 仏壇の前じ三三九度ん杯を交わし 親子兄弟姉妹親戚の紹介なかなんかが仲立ちかるあると披露宴。飲めや歌えん賑やかな祝宴が 夜遅うまじ続き朝早うかる支度した嫁ごは 疲れも顔に出る。

そん晩は何とか終わっちお開き 文句言うしも飲みしこ飲っだしも 紋付きう泥びくごたる格好じ帰った。嫁ごが初めち迎えた初夜にゃ 確かむる役んアリツケバアサンが控ゆる。婿じょうが待ちきれんのか 逸る気持ちじ腰巻うめくると嫁ごもサルルママニ。夫婦ん結びがここに愛でたう行わるる。

隣じ息を殺しち聞いちょつたアリツケバアサン ニコット笑顔が出たら一安心。自分ど一若え頃う思いたんか思わん胸うマサグル。ゴソゴソ音がしたかち思うと婿じょうが又 ヨダッタンカ花嫁ごが満足げかソレト痛さを堪える声か…聞き取れんがバアサンにゃ経験があるきユウ解る。

一時しちバアサン親に報告すりゃ『お世話になりやんしちな』いたわりん声が貰えち役目が終わった。『まあ茶でん飲んで』『もう遅いきいいわな』『いんにゃギシュクジャキ…コレほんの気持ち』 包んだ祝儀袋を押し頂いち 『ほんなもうヤスマセチモラオウナ』『ソゲーシチョコレ』 若い二人はいい夢見よるか夜は更けち行く。明日かるん苦労やら惨めな生活もあるじゃろうが それも宿命かん知れん人生のあれこれ道。

続いた祝言の披露んオシマイは 組みウチン女ごしん番になった。ツワモンゾロイン女ごしたちが ミョウナ目じ立ち座りかのお膳の上げ下げまじ シラシンケン見つめちよる。くすくす笑うソゲナヨウスガ嫁ごにしちみりゃ バケラシイケンド今はじっと我慢するしかねー。『嫁ごジャキよろしゅうお願いします』 母親が手をちいち 嫁ごが頭う丁寧にさげた。

3日目になっち『初泊まり』えーと自分カテー帰った娘 気も広がるごたるような安心。婿じょうは借りた猫んごつオトナシイキ。『ドゲージャツタナ』 母親が一番しんばいしちよる 『ウフン』そんな声じ ユウデケタンジャ ち母親は安心すると 『よかったな』 もう後は何にも言わんこちーした。孫はいつか待ち遠しいがハジメチ女ゴニナツタ喜びッ全身かる受け取れた。

正月にゃ鏡餅とシャケン塩物んが来る。ソイチ節句があり雛餅チマキ柏餅と ヤンガチ初孫ん便りも届いた。『在所じ生むんな』 『それがいいけど義母さんが家ジチ言うき』 『そうな……』 初子は在所じ生ませて一けんど 折角言うチクルリヤ そう思うと無事生マルルヌー待とぅ。

気苦労しながら男ん子が生まれたち 便があつたモンジャキ両親が もち米持ちイサギユ出かけた。親子サカシイゴタルキ安心しち 母親が2 3日オルコチーなつた。娘も気がねノージよかろうが長居も ここんしが粗末に扱うちカングラレテン困る。いい頃アイを見ち『長うオッテン邪魔にナルキ』 『そうな ほんないットキザイショじヨコワセチ貰おうか』 待ちよつたち言わんバカリン心くぱり 嬉しいやら喜びやら娘もドビアガッチ喜ぶ。

子が出来たらもうイバッチョラニヤ損するで 皆に励まされち気も大きゅうなつた。『ソゲースル負クルモンカ』娘ん張り切りようは遅しゅう頼もしかった。苦労の多い人生でんあろぅが。

早えもんじ嫁ごにナッチもう10年 3人目ん子供も出来たが家は旧式。昔んママン旧態依然の生活が続いちよる。惨めな日も苦勞ん多い仕事も切り抜けち来たが いまだに嫁ごヨバワリじ他人扱いんまま。言いて一事も遠慮しながら子供ん面倒かる 炊事洗たく所帯まわりかる務めん仕事まじ。

いつまでタツト1人前ん家族にナラルルンカ。慣れん仕事じ出来んと『こんくれん仕事がマア出来ん』 叱らるるんはシカタネーニシテン 婿じょうも助け船も出エチクレン。親ん権力があんまり強いもんじゃき 口オモトーナッチシマウ。時にゃ逃げ帰りて一が子供もオリャそれも ち足が気が重うなっちしまう。

こんめーコ子を寝せつくる子守しながら イデバタう歩くと月見草ん夜露が足う濡らす。里じゃこげな夜は楽しい若いしん シャベリアイガアッタち思い出す。アンシに嫁ごに行っちゃたら………とん空想もしち見る。儂いカナワン夢ち解っちゃおるが セツナギートつい愚痴も出るんが悪いじゃろうか。

『かあちゃん もう帰らんか』 長男が心配シタンカ迎えに来た。『ありゃ迎えに来ちくれたんな まゝニイランキ』『風邪う引くで 俺がおオポーカ』『エー……オオキニ イイデ』 親子が泣きて一ごたる夜。星が美しいけど人間の心はトキニャー曇るごたる今 私一人じゃねーこん子供ん為にも 頑張らにゃ仕方ねーんか。

『もう帰ろっかなー』『うん』 長男が言うちくれた『子守う代つちくるる そんな気持ちがドンクレー嬉しかったか せめて婿じょうが迎えにち 悔しさと情けなさが頬ん涙になっち流れた。どうでんへモドルコトン出来ん宿命。子供たちん為にも親としち我慢せにゃナルメエ。

『宿題すんだんな』『すんだで今日なワキヤナカッタ』『ショワーネーんカエ』 語らいが笑い声に。



△ 七瀬川子守歌

なれぬ手で 折ったササ船
せせらぎに流すと 朝霧が晴れ
いつまでも波にゆれ
見送る せつない子守歌
そよぐ風 ネンネしな。

濡れた手の 涙かくした
七瀬川の浅瀬 花がらの色あせ
いつ着れる 人おもう
まつり恋しや 子守歌
神楽笛 ネンネしな。

にぎる手に 優しくふれて
背の子も心も 重い日暮れ道に
そっと寄る ぬくもりが
夢を結ぶか 子守歌
月あかり ネンネしな。

△ 人間数との関わり人生

- 1…一 一人 個 独立 一人では生きて行けない弱さ
- 2…荷 一生の荷物 楽しい荷物 降ろされない荷物
- 3…産 生み出す努力 生ませる努力
- 4…史 聞く 話せる 話す 聞いてもらう
- 5…期 出会い 関わりあい 巡り合わせ
- 6…無 欲を離れね 無になる ためて灰にする
- 7…並 人の下敷きになれる 頼られる人生
- 8…八 開く 自力で開く 人の力を借りる 人の支えて
- 9…苦 99パーセントの苦勞人生を当然と
- 10…寿 人間の終着 満足人生 悔いのない喜び

『もろもろの関わり人生』

壺…丸裸じ生まれた人生ん一人ん力は弱え。そん人ん言葉は立場資格ナンカジ 大きゅう意味が違うち相手に響く。相手がある一言言える しゃべるる 一人前ん幸せ 言葉があるき感謝セニャ。下駄屋ん主人は相手を見ち 自分カル鼻緒をスグル。一人ん人生ん心。

荷…一生ん重荷 楽しい荷物 夢や希望がノーナルと老くる。肩に乗った一生ん荷物は降ろすコター出来ん。親を大事にせにゃ自分も大事にゃされん。夫婦が荷物う支えおうち運ブノン 人生の宿命遍路旅。

産…完全なしはオラン…どこか欠けちよる。人間の生み出す努力と生マスル幸せ。金じゃ買えん命 愛 子供そリャ宝デンアル。菓子の原点な木の実 草ん実…木草ん実に人が心う加えたもん。ソコジ生まれ変わる生み出すコチーナル。

知…聞く 話す 話さする 聞いちもらう。料理は材料じ左右さるるごつ 人も長所を生カシチャル。話し上手 聞き上手 ソリー話させ上手じ人ん知的才能も 引きデーチャル。知るこたー知らんしが 知ッタカブリューするよりドンクレー 高貴に見ゆるか。

期…人ん出会い 関わりあい 巡り合わせ 心に驚きと喜びんあるなー幸せん原点。初モンは75日長生きするち言う。田植えと梅雨ん稲造り文化も 巡り合わせん幸せ人生。何千年もツキオーチ来た古くからん出会い。いつ別れてん悲シマンゴツ今 そん時う大事にせにゃ二度と会ワンカン知れん。生まれた時が一人なら終わりも一人…それが人生デンある。

無…欲う離るる勇氣…貯めて灰にするこち一なっちよる。辛抱したしが火事じ一遍に灰にシチシモウタ。舌をだすのん好かんしがあるかち思ゃ バッチョ笠ン紐がユルーダニ 顎う角ばちちかる落てめ一ドチする。そりゅ一見た向こうかる来るしに 『笠がズリオツルで』『すまんが紐う締めて』『なにえ わしもヘコがズリオテチ ヒコズリよるが締むんのがヨダキイ』

ここまじヨダキ一も考えもん。子供ん頃んワヤクは忘るるがそりゃ一罪のね一いたずら。大人んワヤクはちよいと大事う作たつる。時にゃ命取りにもなる。自分勝手は世間が通用センシ子供ん喧嘩に親が出るな一最低。

並…望まれ過ぎると欲が出るが 人ん幸せを念ずるな一見た目にもイイモン。自分の価値を知っち一人じゃ 生キラレンこつ一頭に入れちよくこと。『三千世界ん烏う殺しちまじ主と添い寝』イイジャロウガ その代わり誰かが泣イチョル。ほんな泣き役に回りキルカ 勝手によすぐるとトバッチリガいつか来る。

サカシカリャ一自分の似合うた穴に あてがう気持ちかドゲ一言うてん無難じゃろう。食うた事もネ一モンに知ったかぶり石けんぬ食うち泡う吹いた話なんか まさに天罰じゃろう。

八…開く 末広がり 人の力お借ってちノシ上がる。規則正しい生活じ長所を生かすごたる 人ん支え援助が人間性も豊かにしち人となりん立場が出来あがる。自助努力も元を正せば人の影ん支えが ありゃコスジ人ん世話にゃナランナンカ 口がシャケテン言うもんじゃね一禁句。人間な人によっち生かされもしちよるき。

そげな弱え人間が威張ったところじ シレタモンジャ。それよりか控えめじこす品位もあっち 人格もひとが認めちくるる。人が評価しちクレチコス価値観があるもん。

苦…人生にゃ苦勞がつきもん当たり前じある。99パーセントん苦勞があるき1パーセントん楽が目立つ。寒い冬は万物がすべて『冬ごもり』ウすんのもチットゼン 苦勞を和らぐる生活ん知恵。夏ん長え間ん働きがそれも許しちもくるる。厄年い墓お立つるんもチットゼン苦かる抜くる 願いかん知れん。坊さんが經を読むのでん日によっち 心が動き思いも変わる真実じゃろう。それが人間じあり生身ん動物でんある。

寿…笑顔を絶やさんしは幸せ人生ん先導役。人間の終着にゃそんしの現せん全てが現るるもん。どげ一口じ美しい事う言うてん世間は万物は神仏は知っちよる。満足出来た人生かは自分がゆう知り 解っちよるき死を恐れたり 思いで多い生涯じゃつたと それぞれに解釈しち世をさるもんじゃろう。

※ 数と人間とん関わりはいつん世も 同じ事じゃろうが人ん心や持ちかた 人とん関わりじも変わっちもくる。数字を漢字におきかえち 書いたごつ人間の宿命は降ろされん荷物でんある。

七夕…柵機織りからん語源のごたる…タナハタかる。ソーメンぬ食ぶる風習は機織りん糸を忍ぶ意味。金持ちんしが自分かたん山〈庭園のようじゃが〉ん竹を利用しち 短冊うつけち皆んなに見せたち言う。短冊にゃ願い事う書くがササヤカン願いが チットデン通じるとすりゃ ドンクレー幸せじゃつたじゃろうか。

流れ星を見ちすぐ 『字 ソロバン』ち 落つるまじい言う と 字がソロバンが上手になるち言う 夢んごたる習わしもあった。



「八輪」……「五徳」

コンロンこつー7厘ち言うが 料理 焼き物なんか利用ん幅がひりー。そりースミが手近えあるきユウ使われちよつた。風呂タキンケシズミを使う事も多いし 長え間ん煮物にゃテーゲーよかった。そん上いスキマう作っち火熱うヤオーシタンガ 八輪じやった。7輪より一枚上じゃき8輪…ソウジャー「はちりん」ち言う。

コゲナ火に関係があるんが五徳。物う煮たり焼いたり湯をワケータリするき中々便利じゃつた。鉄製 真鍮製 砲金製 陶器製 土製なんかがあっち オオモトニャ鉄輪〈カナワ〉ち言いよったき。火所〈クドコ〉やら禅家ん火床〈クドコ〉ンん 当て字がいつんなかめーか 変わったとん言う。茶道じゃ形もアレコレ 据えかたも作法があるそうな。

五徳にゃ 温 良 慕 儉 讓 ン5徳があるらしい。

温…ぬくもりんある心 良…すぐれちよる 慕…人に対しち正しくつつしむ 儉…引き締まる生活うする 讓…権利ん主張を控え目に ゆずる心。

※ ムゲネー……ゆう働く心優しい下女が 雇い主人一方的ん感情によっち 暇お出されちしもうた。下女はどこでん仕事ん出来る 働き者じゃつたが 訳もわからん暇だしん悔しさに 自分ガン命う断っちしもうた。ソゲナ早まったコツーサセチ 下女んおらんごつなつた 雇い主人心ん哀れさを 人ん世に「むげねー…無下女〈ムゲネ〉」…ち皆が同情シタチ言う。



あげなつ こげんはなし



『水飲み通った大蛇』

あんまり見事ん彫刻じゃき 木彫りん竜が夜になると近所ん池に水飲みい通いよつた。オオモト水ん少ねえ土地じゃき 田んぼう養う時でん飲み水にもナッチョツタる 神社に奉納されちかんでん夜に通うぬ一見た近所んしが目を見張り 腰う抜かしちしもつた。早う手を打たにゃ池ん水がノーナツチシマウ。こん話う聞いた修験者が呪文ぬ唱えち竜ん 尾を切るコチーなつた。

夜ん更くるぬ待ちち拝殿に近づき両断を。『飲みに出らんき水う供ゆるごつ』 修験者は返答に困つたけんど百姓ん ヒジイノンゆう解るき『年一回秋祭りに下宮まじ神幸しち泊まる晩に工面する』ち。竜も納得しち約束した。秋ん雨がそん代わりうする事じ帳消しいなつた。それかるは尾を切られた竜も池にゃ出らんじ 秋祭りにゃあん池まじ神幸をシチモライよる。

あげんこつ……こげんはなし

学校まじ8キロもあるき途中じ 遊ぶぐれーはアタリマエン事。コガシうオトシい入れち行ったり ヤキゴメう途中ん木の枝えブラサゲチ 帰りいヒモジュナツタ頃い ヒキズリオリーチ食う。そんな頃ん上級生はオズカッタケンド 喧嘩どもしゅうもんなら すぐ来ちカボーチクレタモンジャ。

途中に『ほら穴』があっち みんなじ冒険ぬした。大けん石ん下かる人間の骨がノジー Chol。子供じゃき珍しいんとオジイイガイチドキジャツタ。震えまわったあん頃あ考えちみりゃヤッパ 何か懐かしいもんじゃ。男ん子ドマそべー寄っちキタキ 好いちよんのかち思うたら 他んしが好きじゃつたごたる。

夏休みにゃ お宮やらじ勉強したり 盆になると踊りん練習する若えしが 羨ましゅうじツイチ習いよつたら 若え姉ちゃんが男ん人と木陰に入っち 胸がドキドキしちしもった。観音様じ掃除しよつたらソゲナ人どろが来ち ゆう顔う見よつたら赤うなっちなえ。オトシかる火焼う出えて『こりゅう食え』ち くれた。

古い家に入ったら奥に昔ん『コリベントウ』『マクラとソロバン』『フデ』ナンカガ並べちゃつた。何でん昔かるん家じ そこんし使いよつち言よつた。そんな頃にゃ江戸まじ使いが出よつち そんな書いたもんも残っちょつた。ゆう歩いち行つたもんじゃちタマガル。今考ゆると夢んごたる。

『お医者さんごっこしゅうえ』『だれがお医者さんな』『俺がなるど』『ほんなウットーどーよろけジャー』『お医者さんが見ちやるわな』『……』『誰かるか』『ウットーボンボンが痛えー』『ほんなハグツチミヨ』『どくーえ』『どこでんいいんで』 あんまり頼りにならん お医者さん……じゃが。

ふりそで火事…《明暦》1656年1月18…20日にあった
大火は 八百屋お七が好きナシニ会いテーバッカ
リィ つけた火が元ち言わるる。

すきやき…江戸時代に 百姓が使いヨッタ『鋤』を 使うち
肉う焼いタンガ 元おことち言う。

植物もろもろ…動物あ酸素を吸い 炭酸ガスう吐き出すが 植物
あ炭酸ガスう吸うち 酸素を吐き出す。
動物あ植物う食べ物にシチ求むるが 植物あ動物
んヒッタモンぬ 栄養源にしちよる。

肉食動物あ草食動物う テンショムショ殺さんじ
足りた事う ゆう知っち自然環境う守った 生き
方うする。

※ 人間なこげなルールを忘れち《忘れたふりゅ
ーしち》 欲望満足にノボセアガル。摂理ん
灯は人間自身の知恵と 意志によっち歪めら
れち 塗り変えられち ヤンガチ塵やほこり
に覆われちしまう。

ソゲナンを取り除く為にゃ 親子 兄弟 友人
師弟タチン日々ん 反省が前進デンアリ責任でん
ある。

★ 万物は相互関係にヨッチ 維持されチョルモンジアリ 人間
だけん勝手 別行動ナンカは許されん。正行 正しく見 正
しく聞く 正しく思う 正しく語る 正しく生きる 正しく
反省することがドンクレー大事な事か。

自分ぬ理解し管理し
救うこたー自分にしか出来ん。6 正行の摂理う日常ん生活に

取り入れち実践するんが 一番で一じな事じゃろう。摂理っ
学び認識っ深め 煩悩に覆いかぶサレngoツ 自分自己ん確
立と自分らしい調和が 自分ぬ人間性豊かなモンにしちくる
る。

しあわせ……今しあわせなち 言われち『ああ』ち返事出来るしゃ
ヨキーネージャロウ。自分が元気じ生きちよる時 し
あわせち思わにゃナランに……元気な時い病気ん時ん
事っ考えたしがあるうか。アンマリガイトーハナカロ
ウデ。自分がん体は自分が責任ぬ持たにゃ 自分ガン
チ思うと大ケン間違い。こりゃー生マレチ来た時ん借
り物じゃき 最後にな返さにゃならん責任がある。

勝手に傷ツケチミタリ 自殺するなんかモッテンホカ
〈イロイロ事情はあると思うが〉。ジャキ医者も病人
にゃ 自分がん自由な時間まじ捧げち取り組んじくる
る…これも医者 of 責任義務じゃき…ち解釈する。

会合に出席出来た時ん感謝…ソコニャ家族 近隣 役
職 ソゲナシ全てん者 物に感謝せんと悪いわな。送
り出えちくれた心に ソリー報いる責任もあるき 会
の中身をゆう咀嚼しち 家族に 近隣の人に 世話に
なったしに 恩返しセニャナランチ思う。

※ 神様は時々いたずらっするけんど 一生懸命頑張
るしは見捨てはセンキ。

※ 茶柱は縁起がイイチ言うけんど こりゃー商売人
が売らんがためんアイデア。ケンド何か夢があっち
それもイインジャー。

人間の心理たーソゲナモン。じゃき病気も気カルチュウ言うけん
ど 油断した隙間に貧乏神が入りクーダリもする。気をつけなりー
え。ほんなな。

知っちょつち損せん…あげな事 こげん話

- ★ 心いタマガルゴタル事んあるしは 幸せん生きがいかん。
料理うすんに素材をイカシキリャ ガイトうもうなる。
人間の長所を生かしちやるんも 世間んの役割んごたる。
言葉はそん人ん立場 資格によっちオオケンコツ違う。
夢やら希望がノーナル時ゃ 年寄りになる。
野ん実やら山ん雨う使うな一人間の 才能ん原点。
無うじ7クセち言うが 人間最低7つん長所がある。
- ★ 府内会館〈赤シソガ館〉な大正15年…立野金吾ん建築。
田植えは梅雨を利用した 日本の梅雨文化。
蜜蜂た一何千年も昔かるん付き合い。
天照大神…太陽ん女神でんあり 大日如来でんある。
馬耳東風…ババ ズズ トーフとん言うらしい。
目は健康ん窓 年は二番目ん顔。
勝手すぐる人間な…動物う利用しよるが アブノーナルト
ホタッチョイチ逃ぐる。
人間な自分一人じ生きち来たんじゃねー 多い人たちん支え
じ生きちよる。自分ぬ大事に自分の力う自分の工夫じ。
- ★ 早生を取る娘も コマ打つ手にも
今年しゃ嬉しい 黄金んみのり サーテ ソレソレ
ナバをもぐ娘も 牛を引く娘も
いちご摘む娘も 花ざかり サーテ ソレソレ
- 男ざかりが 朝山がえり
上荷揺らした ゆりん花 サーテ ソレソレ
行かにゃなるめー 待たせた夜にゃ
あん娘気をもむ 肌ん風 サーテ ソレソレ



『竜ん恩返し』

水ん少ねえ暑い夏 えーとたまった水い安心しち夜半に ヒキア
グルと次ん日にゃもう水がねー。不思議じコタエンキ夜寝ずん番ぬ
しちょシチョツタラ 何と子連れん大蛇が水飲み来るんが解った。
そん晩こん大蛇うコラシミューち長老に話した。イットキ考えちょ
った長老も 『子持ちなら無理もねー助けちゃドゲーカ』ち 諭さ
れちしもうた。自分の子育てう思い出えたんじゃろう。

手作りん酒う持ちち行き 『稲は荒らさんごつ』ち 畦においち
帰った年ん秋は 水不足ジャーニ予想よりガイト出来た。次ん年に
ゃ干ばつじ雨乞いセニャチ長老に相談。するとすぐ雲がワイチ雨が
降る。そん時長老ん耳に聞こえた声…『あん時助けちモロウタキ』
ち ソリャ世話になった大蛇ん恩返しじゃつたんか。

それかるは水不足にゃ雨う降らせち実り豊か 出来もゆーじ錢ま
わりもゆーなった。サカシュウジ長生きも。畦ん横に祠お立てち竜
神ぬ祭ったき 豊作 金運 延命と今でん守り次がれちよる。苦勞
する時助けたそん恩返しじ あったんじゃろう。夏にウドんぬ供え
ち細うでん長うとん故事に ナドラエタ祭りが夏にされちよる。

『信じた言葉が自分を変えた』

『今は苦勞しよるけんど晩年ない時代がくるぜ』 ち子供ん頃
に言われたんを信じち 正しい気持ちと心じ頑張った。それが思わ
ん結婚相手にも巡りおうち 二人じ汗水タラシナガラ働いた。田も
買えたち思うたら立退きじ 保証がタマガッタホズあつた。それが
貯めた方法がよかったんか ヤンガチ大けな事業に使うちモウケガ
入る。でん人にゃ優しう親切じゃつたきそん 報いもあつたんか人
かるも大事にサレチ サカシイ人生が嘘んごつ続いちよる。占いが
嘘か本当かソリャーそん人ん人徳かん知れん。

地主と小作人

『あしたん晩な みんな気軽にヨロウチ集まるごつ 地主さんか
る言われたき』

年寄りん世話役がフレち来た。

毎年ん暮れん晩に 小作人ぬゆうじ 一年間の苦勞にチットでん
思うやり気持ちをち ご馳走を準備しち酒もつけ 帰りにゃ家族に
餅もチットじゃけんど 持たせちくれちよつた。

先代かるん年中行事 小作人が不平も言わんじ 作る田にゃほか
ん所より ゆう出来る。そん『土地を大事に作ちくれた お礼の
気持ち』と 始まった年の暮れん席。

地主ん気持ちにゃ 嘘やゴマカシじゃねえ『人間としち人間を大
切にする』 そげな思いやりが こめられてもいる。

じゃき 不作の年にゃ そっと考えも見せる…小作人の苦勞をし
のぶ。豊作の年にゃ小作人がそれに応ゆる。そげな人間関係も育つ
ちよるごたる。

働く意欲 物を作り出す知恵 人を大切にする以上の立場を越え
た関わり 素朴な農村じ受け継がれ 時にゃ甘ゆる 子年もにも
『正しい行いが天に通ずる』 自然のなりゆきを 体験もさせちき
たごたる。

飲むほどに酔うほどに 日ごろのダリもカセイしち 早う回ち
しもうた。

『もう おひらきゃどげーな』

『なにや もういぬるんか』

頃あいを見計らち 座をたつと『かかや子供に』ち みやげん
包みが配られた。

ひよいと子供ん顔が目の前に浮かび 今頃 峠ん松ん根元じ寒さをこらえち 待つ緒ちよるかんしれん。

家それぞれん思いがあるき あいさつもソコソコに外に出ると 師走ん風は骨身にしむ。

でん 今日顔が赤なるごつ ヨバレタ。腹がおけたごつ食うた。そりーみやげもある。心は弾み『おごっそんなりやんした』ん挨拶もそこそこに 隣んしや近所んしと 足も軽う家路に急いだ。人影が見ゆるごたる。誰かん足音が聞こゆるごたる。

一本道を月が照らすと キラキラくぼみにたまった 蹉跌が光る。

さげたまやげの 手ごたえが重たい。どうやら餅だけじゃねえごたる。

子供ん喜ぶ顔が目の前に クルクルと走る。シワが増えた年寄りが 立てヒダを座り直しち涙をふく。そげなことが目の前に浮かんだ。

『ほんなのう』 わかされ道まじ来たら イトマゴイした若えもんが 家の方に消えた。と 子供ん喜ぶ高い声が 家の中かる広がる。夜も更けちいく。

雨戸をチツト開けち『帰ったど』 そん子供ん声じ 雨戸がサッと大きう開いた。

奥ん裸電球んそば かかも ツクロイ物うせりやると立っち 出て来た。

年寄りも寝つかれんのか イロりんはて一座っち 煙りに目を細めちよつたが こっちを向くとニコッと笑うと 顔シワが長え苦勞の 年輪でんあり百姓した生き暦でんある。

そん頬にゃキラリ光るもんもあっち うす汚れたテヌグイが無造作に そゆう押さえた年ん暮れん夜。



『今年もゆうハリクーダのう』

『お前どうが加勢しちくれたきこそじゃ』

『のや 俺どうは運がいいのや 毎年こげえ 子供ん喜ぶみやげを もらいでーち』

控えめな母親は だまっち頂くと まっ先に神様 仏様に供ゆると 子供と目を見合わせた。

ちょいと間をおいち じらせち 生ツバのむ子供を 流し目じ見ると

『お前どう ちっと堅えけんどう 焼こうか』

『そんなま食う』

『歯が痛うなるで』

『しょわーねえ』

早く食いたいてーのは 決して空腹じゃねえけんどう何か 土産物は無性に食べないと 落ち着かないんか それとん地主さんの優しい気持ちん 温かさちつとでん早う 接したいんか 子供の本能がむき出しに現れる。

『子供心は ゆうわかるのう』

『早う 食わせなあ落ち着くわな』

パパさんの一口言うたにーみんな笑うと

『そげーしゅうか』

母性本能を にくらしゅう見せる母親は そげな家族の言葉を 待つちよるごたる。

一つずつ渡すと顔がほころび 弾む気持ちが一遍に爆発しち 最高潮に達した。暗い部屋ん中がパッと明るうなった。

『苦を見てんチャント見ちよる やっぱはりくーじよかったのう
』

夫婦は顔見合わせち 束の間のしあわせを味わった。

『作物を大切にしたき そんご褒美に地主さんが こんだウット
どうを大事に しちくれたんじゃな』

『そうとん じゃき 苦も見たが働きがいもあるのや』

正直に働くことが認められる しあわせ。そこに地主と小作人と
の心の結びつき 作物を通じて絆がしっかり結ばれているんじゃろ
う。

酒に魚にみやげに そんな経費より 人間の心の宝こそ 物や金
に変えられないもの。みんなが大事に作ちくるるき 田も畑も喜
び作物もゆう出来る。まわり回っち 小作人にも帰ちくるんじゃ
ろう。そき一人を大事にする人の心くばり 生まれ育つんじゃろう
。

『さあ来年もはりこむど』

『地主さんに ご恩返しせにゃなえ』

月が西にまわり 夜が更けち寒さが身にしみるけんど 心は温か
豊かな夢が今年も こん家にやちきた。『情けは人の為ならず』
ち言うけんど そりゃ自分の為かんしれんもん。

口んはと一汚したまま 落ちち一た子供は いい夢見よるか 年
よりもタッサじ自分どうも 一年の苦勞が報いられた暮れの夜。
生きちよつちよかった 幸せに夫婦もホロリ熱いもんが頬を伝わる
。



『のろし台』

野野台ち言う所い昔ん『のろし台』があった。肥後領にナツチかる 参勤交代ん時なんか『のろし』うあげち 連絡しよった場所ジャツタ。そんな頃んゃ役人も16人オッチ 今でん役宅跡ん石垣が残ちよる。それもドウヤラ肥後式ん積み方んゴタル。高え所じゃったにあんまり高え山もネーニ 水があっちイノコ 井戸がある。

役人のホカニン小役んしもオッチジャロウキ そんな頃んゃ賑やかじゃつた事じゃろう。岩下にゃ里程木んエノミン木がある。ココンシん話じゃ今市…矢の原…野津原ん街道んホケー 今市…今畑…籠台…福宗…岩下…野野台…野津原 ん道もあったゴタル。福宗カル…伊塚…野津原 ん道じ 矢の原カラン道と合流した 方法もあったごたる。

ココンヤ下尾神社があっち そんな境内が『のろし場』になちよった。ソゲナ伝承もあるが チットヨケタ場所に東向きん穴があるが そこが『のろし台』ち言うコチーなちよる。ジャケンド穴ん中があんまり フスポッチョラン所うみると お宮ん方がソウカン知れんごともある。

近所に オギノハナ クボヅル コバンハナ《近時使われちよるが 当時ん記録にゃねえ》 ナンカン呼び名があるが 優雅ん生活う幻想するごたる呼称。役人の奥方が奥ゆかしい暮らしうシタンか それとん出先ん役所ジャツタキ 見た目にも素晴らしい光景を演出しちよつたんか。

エノミン木は清正が植えたチ言うし そんな坂にゃ石ダタミが敷かれちよる。野野台ん高い場所に上り下りした 当時ん人ん行き来もオオゴツジャツタジャロウ。が状況かる空想するニャひと味違うた眺望ん効く役所じゃつたんかなえ。

涼しいうちが気持ちいい

『やっぱ涼しいうちスルナー気持ちがいいのう』『早うシュウヤち言うのんゆう解った』 暑苦しうじ寝れん夜がもう何日も続く。コゲナ時お朝ん涼しい時いスルナー 気持ちがいいだけじゃねー洗うた後も特別美しゅう見ゆる。じっと眺めち一休みしよったら隣ん嫁ごがニヤット笑うち 『アンタドー朝早うカル イイコツシヨッタナー』『ソウデ早いゑなーいいき 見よったんな』『見えたで流したり洗うたり よっぽずよかったんじゃな』『真似うシトナーリヤセン』『ウツドーモ明日ん朝 早うして一ち話したんで』

大けん声じツックリおうち話したり 汚れた分ぬ流したりする。エートスンジ眺むる時 元気ゆう頑張ちくるるに一感謝せにゃち思う。『美シュー後始末マジしたなー』『そりゃーもう見つからんごつなえ』『おかしいなーそげー内緒にせんでんヨカローニ』『ちゃーイツンナカメーカしちよつたち 言われて一こと』『それもそうじゃなー』

二人じ涼しい一時に思い切りしてえ事うする 幸せな夫婦の生活だけに人には内緒に。タマガラセテーそげなエエラシイ所もあったんじゃろう。白い肌がチット涼しかったきか ほんのり赤うなच्चよる。無理に押エツケチ汚れはチャント落とさんと 誰がいつどこかる見るかんしれん。『アッコン嫁は口おサカシイガする事おドンナ』 じゃあんまりムゲネー。

気持ちユウナッタ二人が顔見合わせち 汚れ物う片付けヨルト家ん中かろ 『ママタブルデ』『アーイ ハメクウジすぐシマウキ』 網戸を元ん場所にはめ込むと見通しがゆうなった。これじ正月まじ世話おなかるう。早起キャ三文の得とか古い諺にもあるが 二人ん気持ちも情交よりも違おた 味わいが楽しめたじゃろう。

上浦町の松本英明さんは平成12年8月まで7期28年間上浦町の町長として活躍された方。巡り合わせのご縁で『表紙画』を続けて書いて頂きました。方言調査にも出向いて地元の皆さんとの情報交換もしていただきました。タイトル題字に姫野順子さんも題字を飾ってくださった田口勲さんと華を添えてくださいました。タイトル画には馬子歌シルエットの佐藤憲博さんと中部校の2年生7人が応援してくれました。カットは会員です。

前編 後編 こぼればなし 統編No.1 統編No.2 小中学生向けの歴史ガイド 統編No.3 そして統編No.4と8冊が多くのご支援とご協力によってここまで辿り着く事が出来ました。本当に有難く感謝し厚くお礼を申し上げます。平成15年に『野津原方言単語…5200語』をまとめて集大成の発行で方言調査を終了する事となります。

統編No.4にはジャンル分類としては最後の冊子となりますが『若えもんの活動男し女し』『子供ん世界』を挟んで『伝承芸能と文化』『五助馬子歌街道ものがたり』『古い唄新しい歌』『おちゃおけばなし』を脇役に『あげんこつこげな話し』でしめくりました。素人編集で全て手作りです どうかご理解ください。

野津原で使われている方言単語も調査した資料から約5200語がまとまりました。多くの皆様のご支援とご協力がこの集大成の完成にこぎ着けた訳です。それだけ方言に対する思い考え情愛が深い捨てがたい懐かしい暖かい物を持っているからでしょう。心に残り心にそっとしまいでんで大切にしたい同じ思いでしょう。長い間読んで頂きまして本当にありがとうございました。来年春に発行予定の『野津原方言集…単語…5200』も是非ご愛読お待ち申しています。



野津原方言集…続編No.5…『方言単語5200語』の発行予定は平成15年3月です。約12年間に調査収拾した資料から単語を抜粋 野津原で使われていた〈現在も使われている〉無形文化財の生活用語…野津原方言の調査の集大成です。前編ではジャンル別に分けていましたが 集大成では全てを統一して あいうえお順に頭二桁順に ★ ああ あい あう あえ あお…のように解りやすい編集にしました。

既に現在では死語となっているもの 使ってはいけない差別語 卑下する言葉 著しく下品な方言…それらも出来るだけ多く掲載。方言集の本質から取り入れました。その点はお含みおきの上ご覧いただければ幸せです。今回も限定100冊の予定ですので ご希望の皆様は早めに会長 会員 事務局にご連絡いただければ 確保しておきます。

素人集団の『方言調査』これから先に方言のルーツ 方言の流れなどの調査研究を手がけられる 皆様のお役に立つとすれば幸せです。長い間誠にありがとうございました。会員一同感謝申し上げます。ご愛読頂いた皆様方のご健勝ご祈念申し上げます。方言の暖かさを大事に守ってあげてください お願い申します。

平成14年3月吉日

野津原方言調査会

